

IV. 乳幼児健診についてお伺いいたします。

【問 17】乳幼児健診に従事している期間はどのくらいですか？

(他の市区町村での経験も含めて) 約 年 か月

【問 18】現在、どのくらいの頻度で乳幼児健診に従事していますか？

(他市区町村での従事も含めて)

- | | | |
|-------------|-----------|-----------|
| 1) 1ヶ月に1回以下 | 2) 1ヶ月に2回 | 3) 1ヶ月に3回 |
| 4) 週に1回 | 5) 週に2回以上 | |

【問 19】乳幼児健診ではどのようなお仕事を担当されていますか？あてはまるものすべてに○をつけて下さい。

- | | | | |
|---------------------|-------------|---------|---------|
| 1) 問診 | 2) 集団での健康教育 | 3) 計測 | 4) 診察介助 |
| 5) 結果説明 | 6) 個別の保健指導 | 7) 事務作業 | 8) 受付 |
| 9) その他(具体的に: _____) | | | |

【問 20】乳幼児健診に従事する中で、次の内容についてどの程度困難さを感じますか？それぞれ一番近い番号1つに○をつけてください。

内容	4. かなり困難を感じる 3. 少し困難を感じる 2. それほど困難を感じない 1. 全く困難を感じない
1) 問診でのききとり方	4・3・2・1
2) 問診での顕在的な(明らかとなっている)健康課題やニーズの把握	4・3・2・1
3) 問診での潜在的な(対象者からの訴えはないが保健師として気になる)健康課題やニーズの把握	4・3・2・1
4) 結果説明	4・3・2・1
5) 個別の保健指導	4・3・2・1
6) 集団での健康教育	4・3・2・1
7) 対象者との信頼関係づくり	4・3・2・1
8) 拒否的傾向にある対象者への対応	4・3・2・1
9) 身体的発育に関するアセスメント	4・3・2・1
10) 精神的発達(心理発達)に関するアセスメント	4・3・2・1
11) フォローアップ(継続的支援)の必要性に関する判断	4・3・2・1
12) 地区担当保健師へのつなぎ方	4・3・2・1
13) 地域の社会資源に関する情報提供	4・3・2・1
14) 時間的制約	4・3・2・1
15) 苦情への対応	4・3・2・1
16) その他(具体的に: _____)	4・3・2・1

(全員お答え下さい)

【問 24】お勤めの市区町村の乳幼児健診に関するマニュアルは配布されていますか？あてはまる番号 1 つに ○ をつけて下さい。

1) はい 2) いいえ 3) マニュアルはない 4) その他 (具体的に: _____))
--

【問 25】乳幼児健診への従事に関する自信度はどの程度ですか？最もあてはまる番号 1 つに ○ をつけて下さい。

1) とても自信がある 2) ある程度自信がある 3) あまり自信がない 4) かなり自信がない

【問 26】乳幼児健診に従事するにあたって困ったときの相談体制はありますか？あてはまる番号 1 つに ○ をつけて下さい。

1) はい 2) 特になし 3) その他 (具体的に: _____))
--

V. 乳幼児健診に関する研修についてお伺いいたします。

【問 27】次の乳幼児健診に関する研修について、どの程度受けてみたいですか？それぞれ一番近い番号 1 つに ○ をつけてください。

内容	4.とても受けない 3.まあ受けない 2.あまり受けない 1.受けない
1) 乳幼児健診での個別保健指導 (座学)	4・3・2・1
2) 乳幼児健診での個別保健指導技術 (ロールプレイ)	4・3・2・1
3) 発育発達 (身体面) に関すること	4・3・2・1
4) 精神 (心理) 発達に関すること	4・3・2・1
5) 勤務している市区町村の母子保健に関する現状について (統計情報含む)	4・3・2・1
6) 勤務している地域における医療体制と保健機関との連携に関すること	4・3・2・1
7) 勤務している地域の子育て支援に関する社会資源について	4・3・2・1
8) 「健やか親子 21 (第2次)」やその中での乳幼児健診の位置づけに関すること	4・3・2・1
9) その他 (具体的に: _____))	4・3・2・1

【問 28】「健やか親子 21 (第2次)」について話を聞いたり勉強する機会がありますか？あてはまる番号 1 つに ○ をつけて下さい。

1) よくある 2) ときどきある 3) あまりない 4) ほとんどない

次ページにつづく

研究課題 2-1-1

乳幼児健診における医師の診察項目、精度管理、
医師研修に関する実態調査

小枝達也

国立研究開発法人国立成育医療研究センター こころの診療部

山崎嘉久

あいち小児保健医療総合センター 保健センター

要旨

市町村の乳幼児健康診査（以下、「乳幼児健診」とする。）事業において、従事している医師の診察項目、および市町村が実施している健診結果の集計や、医師等の従事者に対する研修の状況について把握するため、全国市町村の乳幼児健診担当者を対象とした調査を実施し、874件（50.2%）の回答が得られた。

乳幼児健診の受診結果データを定期的に集計している697市町村中552市町村（79.2%）が、医師の所見の有無の判定（有所見率）を集計していた。精密検査の医療機関を特定していると回答した333市町村では、その対象項目は「聴覚検査」69.4%、「発達の遅れ」66.7%、「視覚検査」64.3%、「股関節脱臼」59.2%であった。従事する医師の診療科目は、小児科医が多いものの、集団健診でも個別健診でも、内科・小児科医の占める割合が相当数認められた。市町村が、医師に対して乳幼児健診に関する何らかの研修を実施しているのは41市町村（4.7%）で、このうち定期的実施しているのは25市町村、過去5年以内に実施したことがあるのは16市町村であった。一方、医師・歯科医師以外の健診従事者への研修は、303市町村（34.7%）が実施していると回答しており、医師・歯科医師の実施状況と大きく異なっていた。健診従事医師に対する研修等に対応している市町村は極めて少数であり、ほとんど医師に任せきりになっている状況が明らかとなった。小児科医以外の診療科の医師も含めた健診従事医師への研修等の充実が喫緊の課題と考えられた。

【はじめに】

乳幼児健康診査（以下、「乳幼児健診」とする。）事業は、母子健康手帳と共に自治体の母子保健活動の根幹をなすものであるが、事業主体となる市町村がそれぞれの状況に応じて事業内容を決定していることから、その実施内容には大きな違いが認められる。今回、乳幼児健診における医師の診察項目、

精度管理、医師研修などの実態を把握するため全国調査を実施した。

【目的】

市町村の乳幼児健康診査（以下、乳幼児健診）事業において、従事している医師の診察項目、および市町村が実施している健診結果の集計や、医師等の従事者に対する研修

の状況について把握すること。

【対象・方法】

全国 1,741 市町村の乳幼児健診担当者を対象とし、「医師の診察項目、精度管理および医師研修等に関する調査票」を作成し、平成 29 年 10 月～11 月に郵送にて回収した。

【結果】

1. 回答市町村の状況

874 件 (50.2%) の回答が得られた。回答市町村が実施している乳幼児健診の状況は、厚生労働省「乳幼児健康診査事業の実施状況 (平成 27 年度)」で示された全市町村の状況と比較して、3 歳児健診等の個別健診の実施割合が高い傾向を認めた。

都道府県別の回答市町村の状況は、各都道府県平均 17.6 か所、最大 84 か所 (北海道)、最小 7 か所 (富山県) で、都道府県内市町村数に対する割合は、最大 88.6% (群馬県)、最小 23.5% (高知県) であった。なお、48 件が市町村名無回答であった。

<集計結果 1 参照>

2. 乳幼児健診に従事する医師の診察等の状況

1) 医師の診察項目の集計

乳幼児健診の受診結果データを定期的に集計している 697 市町村中 552 市町村 (79.2%) が、医師の所見の有無の判定 (有所見率) を集計していた。

子育て支援の必要性の判定は、スクリーニングとは別の集計区分が必要である。保健指導の判定の集計に用いている区分に関する

質問において、121 市町村 (17.4%) は、要経過観察・要医療等の疾病のスクリーニングとは独立した保健指導区分を用いていない状況が把握された。

<集計結果 2 参照>

2) 精密検査医療機関を特定している項目
乳幼児健診では、医師の診察でスクリーニングされる疾病だけでなく、問診により基礎疾患や治療中の疾患なども把握される。また厚生労働省の通知*に示されている医師が診察すべき項目は、多くの分野に渡っている。今回は、市町村が疾病のスクリーニングとして優先している疾病を把握するため、「健診後の精密検査として医療機関を特定している」診察の項目を把握することとした (表 1)。

何らかの疾患について精密検査の医療機関を特定していると回答した 333 市町村のうちで対象となる診察項目は、選択肢で示した「聴覚検査」69.4%、「発達の遅れ」は 66.7%、「視覚検査」64.3%、「股関節脱臼」59.2% の割合は高く、6～8 割の市町村が優先度を置いていることが示された。「尿検査」は 31.8% であった。また、これらの項目は、健診結果を定期的に集計している 528 市町村のうち 6～8 割が集計対象であるとの回答であった。

さらに、その他の項目に回答のあった自由記載から、対象となる疾病名を抽出し、厚生労働省の通知において「診察所見」に例示している疾患群にしたがって整理した。

通知に示された診察所見の疾患群のうち、自由記載から抽出した疾患名が、身体的発

*厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課長「乳幼児に対する健康診査の一部改

正」について (雇児母発 0911 第 1 号 平成 27 年 9 月 11 日)

表 1. 市町村が精密検査の医療機関を特定している診察項目

診察所見	選択肢	回答頻度	抽出した疾患名	件数
身体的発育異常			低身長	14
			体重増加不良	4
			肥満	3
精神発達障害	発達の遅れ	66.7%		
運動発達異常				
けいれん				
神経系・感覚器系の異常	視覚検査	69.4%	発達遅れに伴う視覚異常	1
	聴覚検査	64.3%	発達遅れに伴う聴覚異常	1
			神経内科疾患	1
血液疾患				
皮膚疾患			アトピー性皮膚炎	2
			血管腫	1
股関節	股関節脱臼	59.2%		
斜頸			小児外科疾患	2
循環器疾患			先天性心疾患	12
消化器系疾患			小児外科疾患	2
泌尿器系疾患	尿検査	31.8%		
			泌尿器系疾患	3
			停留精巣	3
			尿道下裂	1
			陰唇癒合	2
先天性代謝異常				
先天性形態異常			頭部変形	1
			脳神経外科疾患	1
その他の異常			早発乳房	2

育異常に該当したのは、低身長、肥満、体重増加不良、神経系・感覚器系の異常では、発達遅れに伴う視覚異常や聴覚異常など、皮膚疾患では、アトピー性皮膚炎、血管腫、泌尿器系疾患では、停留精巣、尿道下裂、唇癒合などであった。通知の疾患群のうち、けいれん、先天性代謝異常に該当する記述は認められなかった。また、健診結果を定期的に集計している 528 市町村の自由記述の分析でも、表 1 とほとんど同じ疾患名が集計対象となっていたが、その状況は市町村によって大きく異なっていた。なお、集計結果の活用として、641 市町村

(73.3%) が都道府県（保健所）への報告と回答しており、都道府県の集計表を分析することにより、状況の違いを把握する可能性が示唆された。

3) 疾病スクリーニングの状況

個別の疾患のスクリーニングのうち、乳児股関節検診、視覚検査（3 歳児）、聴覚検査（3 歳児）、尿検査（3 歳児）に関する市町村の実施状況について把握した。乳児股関節検診を一般の乳幼児健診と別に実施している 76 市町村のうち超音波検査を用いているのは 10 市町村、視覚検査の一次スクリ

ーニングに眼科医または視能訓練士が関与しているのは124市町村、聴覚検査の一次スクリーニングに耳鼻咽喉科医または言語聴覚士が関与しているのは103市町村、尿検査で超音波検査を利用しているのは10市町村などであった。

<集計結果3参照>

3. 医師に関する研修等の状況

1) 従事する医師の診療科目

集団健診では、市町村が契約している医師は、市町村規模にかかわらず小児科医の占める割合が最多で、大規模市町村では小児科医との契約が9割を超えたが、小規模市町村では小児科医の契約割合が少なくなった。次いで内科医(内科・小児科)が5割ほどを占め、契約医師数でも小児科医の半数程度であった。耳鼻咽喉科医、整形外科医が1割ほどを占め、眼科医の割合はこれらに比べ少なかった。

個別健診では、実施自治体が最も多い9~10か月児健診について分析した。小児科医との契約は、受診対象者が250人以上の市町村ではすべてが小児科医と契約していたが、50人から250人未満では頻度が低下した。内科医(内科・小児科)の占める頻度は、受診対象者が250人以上の市町村では6割を超え、集団健診に比べて比較的高い割合であった。耳鼻咽喉科医、整形外科医、眼科医の頻度は、集団健診の割合よりも低く、産婦人科医の割合が、受診対象者が250人以上の市町村では3割を超えるなど比較的高い割合であった。

<集計結果4参照>

2) 医師に対する研修の状況

市町村が、医師に対して乳幼児健診に関す

る何らかの研修を実施しているのは41市町村(4.7%)で、このうち定期的に行っているのは25市町村、過去5年以内に実施したことがあるのは16市町村であった。一方、医師・歯科医師以外の健診従事者への研修は、303市町村(34.7%)が実施していると回答しており、市町村の実施状況は大きく異なっていた。実施内容は、医師に対しては「診察や判定に関すること」が39件(95.1%)、「発達障害や療育に関すること」が29件(70.7%)で、医師・歯科医師以外の健診従事者では、「保健指導上必要な知識」が210件(69.3%)、「発達障害や療育に関すること」が200件(66.0%)であった。

<集計結果5参照>

現実の乳幼児健診に関する研修会は、都道府県や小児科学会などの団体等により実施されていることが多い。調査では、都道府県や他団体等が主催する研修会への参加や情報提供に関する市町村の対応状況を把握した。医師・歯科医師の参加状況を把握しているのは5市町村(0.6%)、医師・歯科医師に情報提供しているのは34市町村(3.9%)で、621市町村(71.1%)は参加状況を把握していなかった。医師・歯科医師以外の従事者(常勤)や従事者(非常勤)に対する状況とは、大きく異なっていた(表2)。

3) 医師に対する診断の手引き等の状況

医師・歯科医師向けの診断の手引き等について、市町村作成のものを利用が51市町村(5.8%)、都道府県作成のものを利用が146市町村(16.7%)で、医師・歯科医師に任せているが523市町村(59.8%)であった。また、医師・歯科医師向けの健診事業に関する業務に関する説明会は、659市町村

表2. 都道府県や他団体等が主催する研修会に対する市町村の対応状況（複数回答）

対象者	情報提供あり	参加状況の把握あり	参加状況把握なし	旅費・参加費等の確保可能
医師・歯科医師	34 (3.9%)	5 (0.6%)	621 (71.1%)	3 (0.3%)
従事者* (常勤)	516 (59.0%)	307 (35.1%)	171 (19.6%)	369 (42.2%)
従事者* (非常勤)	345 (39.5%)	67 (7.7%)	477 (54.6%)	81 (9.3%)

*医師・歯科医師以外

(75.4%)であったが、業務説明書の作成は174市町村(19.9%)で、うち医師向けのものを作成しているのは59市町村であった。医師・歯科医師以外の従事者への説明会は、729市町村(83.4%)、従事者向けの業務説明書は303市町村(34.7%)が作成している状況であった。

<集計結果5参照>

4. 推奨問診項目の活用状況

「健やか親子21(第2次)」では、指標の一部について、全国共通の問診項目を設定し、毎年度の調査で状況を把握する取組が行われている。全国共通の問診項目(15項目)は、指標を評価する意義だけでなく、個別の対象者の健康状況を把握し保健指導につなげる意義の両面を有している。しかしこの15項目のみでは、個別の健康状況の把握には不十分である。そこでこれら問診項目の活用について検討した先行研究では、共通の問診項目を補完するための問診項目(推奨問診項目)を作成し、「手引き」[†]に示した。今回その活用状況に関する調査を実施した。

推奨問診項目(全13項目)を全項目取り入れているのは、3~4か月児健診で145(16.6%)、1歳6か月児健診157(18.0%)、3歳児健診151(17.3%)、一部の項目を取り入れているのは、3~4か月児健診で666(76.2%)、1歳6か月児健診689(78.8%)、3歳児健診693(79.3%)であった。

特徴的な項目として、保護者の学歴(3~4か月児健診)の項目の取入れは、「いいえ」が847(96.9%)、「はい(「手引き」の質問と選択肢を用いている)」が9(1.0%)、「はい(「手引き」とは異なる質問・選択肢等を用いている)」が2(0.2%)であった。スマホ育児の項目の取入れは、3~4か月児健診では、「いいえ」が795(91.0%)、「はい(「手引き」の質問と選択肢を用いている)」が21(2.4%)、「はい(「手引き」とは異なる質問・選択肢等を用いている)」が42(4.8%)、1歳6か月児健診では、「いいえ」が747(85.5%)、「はい(「手引き」の質問と選択肢を用いている)」が35(4.0%)、「はい(「手引き」とは異なる質問・選択肢等を用いている)」が76(8.7%)、3歳児健診では、「いいえ」が742(84.9%)、「はい(「手引き」の質

[†]平成24~26年度厚生労働科学研究費補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業)「乳幼児健康診査の実施と評価ならびに多職種連携による母子保健指導のあり

方に関する研究」班作成:標準的な乳幼児健康診査と保健指導に関する手引き~「健やか親子21第2次」の達成に向けて~

問と選択肢を用いている)」が 31 (3.5%)、
「はい(「手引き」とは異なる質問・選択肢
等を用いている)」が 87 (10.0%)であった。
〈集計結果 6 参照〉

【考察】

先行研究の成果物である「手引き」では、
乳幼児健診における疾病スクリーニングの
精度管理に用いる標準的な指標として、有
所見率、フォローアップ率、発見率及び陽性
的中率を示した。国の調査（平成 28 年度）
では、疾病スクリーニングに（数値指標を用
いた）精度管理を実施しているのは 339 市
町村（19.5%）であったが、今回調査から、
有所見率を集計していたのは、受診結果デ
ータを定期的に集計している 697 市町村中
552 市町村（79.2%）であった。

医師の判定状況を把握することは、精度管
理に不可欠な要素である。医師の診察項目
の標準化の目的には、データ集計によって
市町村比較を行い、その結果を判定の標準
化に生かすこともある。約 8 割の市町村が
有所見率を集計していることから、有所見
率を用いた評価方法が実務上可能であるこ
とが示されたといえる。

乳幼児健診事業で取り扱う健康課題は多
岐にわたっており、疾病スクリーニングの
精度管理は、対象項目に優先度をつけて実
施することが現実的である。今回は、精密検
査の医療機関を特定している疾病の回答か
ら重要性を把握した。選択肢を用いた集計
では、聴覚検査、視覚検査や発達の遅れ、及
び股関節脱臼の項目は、健診結果を定期的
に集計している 528 市町村のうち 6～8 割
が集計対象としていたが、選択肢の中で、尿
検査の頻度はこれらの半数程度であった。

また、自由記載から、低身長、肥満、体重増
加不良、発達遅れに伴う視覚異常や聴覚異
常、アトピー性皮膚炎、血管腫、停留精巣、
尿道下裂、唇癒合などが抽出できたが、その
頻度は少数であった。

医師に対する研修を検討する上で、乳幼児
健診に従事する医師の診療科目のデータは、
研修方法や対象を考慮する点で重要である。
今回の結果からは、健診従事医師の中心は
小児科医であることが確認されるとともに、
内科・小児科医など小児科以外の医師の個
別健診に従事する割合が、市町村の関与が
強い集団健診よりも多い市町村のあること
が示された。この点は、医師の診察だけでな
く、支援の必要性の情報共有においても留
意すべきと考えられた。

医師に対する研修等の調査からは、市町村
が実施している研修や診断の手引き等の作
成状況、さらに都道府県や他団体等が主催
する研修会に対する対応状況を含めても、
対応している市町村は極めて少数であり、
ほとんど医師に任せきりになっている状況
が明らかとなった。小児科医以外の診療科
の医師も含めた健診従事医師への研修等の
充実が喫緊の課題と考えられた。

<集計結果 1> 回答市町村の状況

主な健診対象年齢別の実施状況

3～4か月児健診			n=874		
実施有り回答	829	94.9%	集団	個別	両方
実施無し回答	2	0.2%	650	186	20
無回答	43	4.9%	78.4%	22.4%	2.4%
n=829					
9～10か月児健診			n=874		
実施有り回答	630	72.1%	集団	個別	両方
実施無し回答	93	10.6%	311	317	10
無回答	151	17.3%	49.4%	50.3%	1.6%
n=630					
1歳6か月児健診			n=874		
実施有り回答	852	97.5%	集団	個別	両方
無回答	22	2.5%	823	34	21
n=852					
3歳児健診			n=874		
実施有り回答	848	97.0%	集団	個別	両方
無回答	26	3.0%	828	18	12
n=848					
5歳児健診			n=874		
実施有り回答	100	11.4%	集団	個別	両方
n=100					

【参考】平成27年度乳幼児健康診査の実施状況(厚労省調査)

	実施あり	実施なし	回答割合*	
3～4か月児健診	1702	39	829	48.7%
9～10か月児健診	1261	480	630	50.0%
1歳6か月児健診(集団)	1676		823	49.1%
1歳6か月児健診(個別)	52		34	65.4%
3歳児健診(集団)	1708		828	48.5%
3歳児健診(個別)	23		18	78.3%
5歳児健診	209	1532	100	47.8%
全国市町村数	1741		874	50.2%

*平成27年度の実施状況に対する回答市町村の割合

回答市町村の規模

3歳児健診等対象者数	回答数	比率
1,000人以上	152	17.4%
500～999人	125	14.3%
250～499人	152	17.4%
100～249人	168	19.2%
50～99人	102	11.7%
50人未満	118	13.5%
無回答	57	6.5%
計	874	100.0%

都道府県別回答数

	回答数	割合	市町村数
1 北海道	84	46.9%	179
2 青森県	24	60.0%	40
3 岩手県	19	57.6%	33
4 宮城県	20	57.1%	35
5 秋田県	9	36.0%	25
6 山形県	15	42.9%	35
7 福島県	23	39.0%	59
8 茨城県	22	50.0%	44
9 栃木県	14	56.0%	25
10 群馬県	31	88.6%	35
11 埼玉県	24	38.1%	63
12 千葉県	30	55.6%	54
13 東京都	29	46.8%	62
14 神奈川県	15	45.5%	33
15 新潟県	16	53.3%	30
16 富山県	7	46.7%	15
17 石川県	12	63.2%	19
18 福井県	8	47.1%	17
19 山梨県	16	59.3%	27
20 長野県	35	45.5%	77
21 岐阜県	24	57.1%	42
22 静岡県	25	71.4%	35
23 愛知県	37	68.5%	54
24 三重県	13	44.8%	29
25 滋賀県	10	52.6%	19
26 京都府	12	46.2%	26
27 大阪府	24	55.8%	43
28 兵庫県	13	31.7%	41
29 奈良県	10	25.6%	39
30 和歌山県	11	36.7%	30
31 鳥取県	9	47.4%	19
32 島根県	11	57.9%	19
33 岡山県	13	48.1%	27
34 広島県	11	47.8%	23
35 山口県	10	52.6%	19
36 徳島県	8	33.3%	24
37 香川県	13	76.5%	17
38 愛媛県	12	60.0%	20
39 高知県	8	23.5%	34
40 福岡県	21	35.0%	60
41 佐賀県	8	40.0%	20
42 長崎県	10	47.6%	21
43 熊本県	12	26.7%	45
44 大分県	8	44.4%	18
45 宮崎県	15	57.7%	26
46 鹿児島県	14	32.6%	43
47 沖縄県	11	26.8%	41
無回答	48		
計	874	50.2%	1,741

＜集計結果 2＞ 医師の診察項目の集計

1.1 乳幼児健診事業の受診結果の集計についてお尋ねします。

質問A1:乳幼児健診の受診結果について定量的にデータを集計していますか	1.はい	697	79.7%	n=874
	2.いいえ	171	19.6%	
	9.回答	6	0.7%	
質問A2:集計している健診対象年・月齢	1.3～4か月児	648	93.0%	n=697
	2.9～10か月児	420	60.3%	
	3.1歳6か月児	683	98.0%	
	4.3歳児	684	98.1%	
	5.5歳児	72	10.3%	
	6.その他	200	28.7%	
質問A3:集計の頻度	1.年1回	445	63.8%	n=697
	2.その他	249	35.7%	
	9.無回答	9	1.3%	
質問A4:医師の診察所見の集計	1.いいえ	100	14.3%	n=697
	2.はい(所見ありの頻度を集計)	552	79.2%	
	3.その他(2以外の項目を集計)	49	7.0%	
質問A5:医師の診察結果の判定の集計に用いている区分	1.異常なし	689	98.9%	n=697
	2.既医療	553	79.3%	
	3.要指導	482	69.2%	
	4.要経過観察	673	96.6%	
	5.要紹介(要精密・要治療)	662	95.0%	
	6.その他	136	19.5%	
質問A6:保健指導の判定の集計に用いている区分	1.特に問題なし(支援不要)	520	74.6%	n=697
	2.助言等で自ら対応可能	308	44.2%	
	3.保健師による支援が必要(保健機関継続支援)	472	67.7%	
	4.他機関連携支援	349	50.1%	
	5.その他の支援が必要	98	14.1%	
	6.その他の判定区分	87	12.5%	
	8.独立した保健指導区分なし	121	17.4%	
	9.その他	121	17.4%	
質問A7:健診後のカンファレンスの参加職種	1.保健師(常勤)	847	99.1%	n=855
	2.保健師(非常勤)	560	65.5%	
	3.助産師	203	23.7%	
	4.看護師	360	42.1%	
	5.(管理)栄養士(常勤)	609	71.2%	
	6.(管理)栄養士(非常勤)	380	44.4%	
	7.歯科衛生士(常勤)	175	20.5%	
	8.歯科衛生士(非常勤)	422	49.4%	
	9.保育士	270	31.6%	
	10.医師	83	9.7%	
	11.歯科医師	19	2.2%	
	12.その他	378	44.2%	
	13.カンファレンスを実施していない(再集計)健診後のカンファレンスの実施	12	1.4%	
参加職種に記述あり	855	97.8%		
無回答	7	0.8%		

2. 一般健康診査受診後の疾病スクリーニングに対するフォローアップについてお尋ねします	質問A11:精密検査が必要な場合に受診する医療機関の選択	1.すべて親に任せている	327	37.4%	n=874
		2.特定の医療機関への受診を勧奨する検診項目がある	237	27.1%	
		3.契約医療機関のみに限る健診項目がある	61	7.0%	
		4.すべて特定の医療機関で行っている	35	4.0%	
		5.その他	207	23.7%	
		9.無回答	7	0.8%	
質問A12:受診医療機関を特定している健診項目	1.発達の遅れ	222	66.7%	n=333	
	2.股関節脱臼(股関節閉鎖制限)	197	59.2%		
	3.視覚検査	214	64.3%		
	4.聴覚検査	231	69.4%		
	5.尿検査	106	31.8%		
	6.その他の診察項目	68	20.4%		
質問A13:受診医療機関への紹介状等の利用	1.健診医が紹介状を書く	369	42.2%	n=874	
	2.精密検査依頼状を利用	571	65.3%		
	3.その他保健機関からの文書	91	10.4%		
	4.親に口頭で伝える	121	13.8%		
質問A14:精密検査を依頼する医療機関と契約を結んでいますか	1.いいえ	88	8.8%	n=874	
	2.一部契約している健診項目がある	487	55.7%		
	3.すべての精密検査を契約医療機関で実施	214	24.5%		
	4.その他	79	9.0%		
	9.無回答	17	1.9%		
	9.その他	17	1.9%		
質問A14-1:どのような健診項目について契約していますか	1.発達の遅れ	122	41.9%	n=291	
	2.股関節脱臼(股関節閉鎖制限)	119	40.9%		
	3.視覚検査	178	61.2%		
	4.聴覚検査	179	61.5%		
	5.尿検査	138	47.4%		
	6.その他	122	41.9%		
質問A14-2:契約医療機関への支払いがありました	1.はい	225	77.3%	n=291	
	2.いいえ	74	25.4%		
質問A15:精密検査結果を健診項目別に集計していますか	1.いいえ	324	37.1%	n=874	
	2.はい	528	60.4%		
	3.その他	11	1.3%		
	9.無回答	11	1.3%		
質問A15-1:どのような健診項目について集計していますか	1.発達の遅れ	381	72.2%	n=528	
	2.股関節脱臼	352	66.7%		
	3.視覚検査	440	83.3%		
	4.聴覚検査	424	80.3%		
	5.尿検査	393	74.4%		
	6.その他	183	34.7%		

＜集計結果 3＞ 疾病スクリーニングの状況

3. 股関節脱臼(股関節閉鎖)のスクリーニング体制に関してお尋ねします

質問A15-2: 次の把握方法のうち最も多い方法はどれですか	1. 医療機関からの返信等	495	56.6%	
	2. 郵に尋ねる	56	6.4%	
	3. 医療機関に照会する	0	0.0%	
	4. その他	6	0.7%	
	9. 無回答	317	36.3%	
質問A16: 集計結果は何に活用していますか	1. 都道府県(保健所等)に報告	641	73.3%	
	2. 市区町村の会議資料	407	46.6%	
	3. 精度管理に利用	119	13.6%	
	4. 事業計画に利用	321	36.7%	
	6. 個別対応に活用(自由記述から抽出)	10	1.1%	
	5. その他	38	4.3%	
	8. 活用していない	47	5.4%	
	9. 無回答	493	56.4%	
質問A17: 精密検査結果を健診担当医に知らせていますか	1. いいえ	266	30.4%	
	2. はい	81	9.3%	
	3. その他	34	3.9%	
質問A21: スクリーニングしている主な月齢	1. 3~4か月児	810	92.7%	
	2. 9~10か月児	166	19.0%	
	3. 1歳6か月児	68	7.8%	
	4. 3歳児	41	4.7%	
	5. その他の対象月・年齢	163	18.6%	
	質問A22: 乳児股関節健診の現在の状況	1. 一歳乳児健診の中で担当医師が行っている	753	86.2%
		2. 股関節健診を別に施行	76	8.7%
		3. 一歳乳児健診で股関節健診を行っていない	35	4.0%
		4. その他	3	0.3%
9. 無回答		7	0.8%	
質問A22-1: 診察のチェック項目		1. 閉鎖制限	548	62.7%
		2. 大腿皮膚溝非対称	428	49.0%
		3. 脚長差	400	45.8%
		4. クリック	332	38.0%
	5. その他の項目	87	10.0%	
	6. 医師に任せており不明	288	33.0%	
質問A22-2: スクリーニングはい/はい(乳児股関節健診推奨項目)として問診を活用していますか	1. はい(下記以外の項目)	234	26.8%	
	2. はい(下記以外の項目)	42	4.8%	
	3. いいえ	233	26.7%	
	4. 医師に任せており不明	281	32.2%	
	9. 無回答	84	9.6%	
質問A22-3: (股関節健診を別に施行している場合) 健診担当医師	1. 小児科医	5	6.6%	
	2. 整形外科医	74	97.4%	
	3. その他	4	5.3%	
(参考) 質問A22-3: 健診担当医師(回答生データ)	1. 小児科医	65	-	
	2. 整形外科医	105	-	
	3. その他	4	-	
質問A22-4: (股関節健診を別に施行している場合) 健診の方法	1. 身体所見	59	77.6%	
	2. X線検査	29	38.2%	
	3. 超音波検査	10	13.2%	
	その他	10	13.2%	
(参考) 質問A22-4: 健診の方法(回答生データ)	1. 身体所見	89	-	
	2. X線検査	36	-	
	3. 超音波検査	14	-	
	その他	13	-	
質問A23: 乳児股関節健診推奨項目を知っていますか	1. 知らない	199	22.8%	
	2. 知っている	474	54.2%	
	3. 担当医に聞知している	95	10.9%	
	9. 無回答	106	12.1%	

4. 3歳児視覚検査のスクリーニング体制についてお尋ねします

眼科(3歳児視覚検査)	
質問A31:主な検査対象年齢	1.3歳0か月～3歳6か月未満 2.3歳6か月～4歳未満 3.3歳～4歳未満 4.その他
回答	452 51.7% 322 36.8% 121 13.8% 13 1.5%
質問A32:スクリーニング方法にどのような方法が関わっていますか	1.問診 2.医師の診察 3.視覚検査 4.屈折検査 5.両眼視機能検査 6.その他
回答	794 30.8% 411 47.0% 701 80.2% 93 10.6% 43 4.9% 100 11.4%
質問A33:スクリーニングに眼科医や視能訓練士が関わっていますか	1.視能訓練士、眼科医が関与 2.視能訓練士のみ関与 3.眼科医のみ関与 4.いずれも関与していない 5.その他 9.無回答
回答	10 1.1% 102 11.7% 12 1.4% 737 84.3% 8 0.9% 5 0.6%
質問A34:判定はどのような方法が関わっていますか	1.異常があれば要精査 2.異常があれば再検査 3.その他
回答	704 80.5% 288 33.0% 87 10.0%
質問A35:精密検査結果の把握はどのように行っていますか	1.連携眼科医療機関に照会 2.書面で確認 3.電話で確認 4.確認不能 5.その他
回答	21 2.4% 719 82.3% 253 28.9% 7 0.8% 57 6.5%

5. 3歳児聴覚検査のスクリーニング体制についてお尋ねします

耳鼻科(3歳児聴覚検査)	
質問A41:スクリーニング方法にどのような方法が関わっていますか	1.問診のみ 2.問診とささやき音検査 3.問診とささやき音検査+α 9.無回答
回答	103 11.8% 676 77.3% 86 9.8% 9 1.0%
質問A42:スクリーニングに耳鼻咽喉科医や言語聴覚士が関わっていますか	1.どちらも関わっていない 2.耳鼻咽喉科医が関わっている 3.言語聴覚士が関わっている 4.どちらも関わっている 9.無回答
回答	765 87.5% 54 6.2% 39 4.5% 10 1.1% 6 0.7%
質問A43:判定はどのような方法が関わっていますか	1.難聴疑いのみを抽出 2.発音、言葉の遅れも抽出 3.他の耳鼻咽喉科疾患も抽出 4.保護者の相談がなければ抽出しない 5.その他 9.無回答
回答	314 35.9% 280 32.0% 216 24.7% 42 4.8% 6 0.7% 16 1.8%
質問A44:「様子を見ましよう」など経過観察とした児の対応について	1.その後のフォローアップはしない 2.保護師による定期的なフォローアップを実施 3.4歳で呼び出し 4.5歳児健診時に重点観察対象となる 5.その他(フォローアップは実施) 6.対応を決めていない 7.その他
回答	39 4.5% 462 52.9% 39 4.5% 42 4.8% 152 17.4% 98 11.2% 136 15.6%
質問A45:3歳児検尿(再集計データ)	1.実施者 2.実施無 3.他状況 9.無回答
回答	851 97.4% 10 1.1% 1 0.1% 12 1.4%
質問A51:スクリーニングに用いる検査項目	1.尿蛋白 2.尿潜血 3.尿糖 4.尿白血球 5.その他
回答	850 99.9% 680 79.9% 724 85.1% 103 12.1% 28 3.3%
質問A52:判定は何を基準としていますか	1.日本小児腎臓病学会の基準 2.その他
回答	535 62.9% 291 34.2%
質問A53:乳幼児健診で超音波検査を利用していますか	1.いいえ 2/はい 3.その他
回答	835 95.5% 14 1.6% 2 0.2%

6. 3歳児検尿のスクリーニング体制についてお尋ねします

<集計結果4> 健診従事医師の状況

集団健診における医師の契約状況

市町村が契約している医師の診療科別の割合

市町村規模	1,000人以上		500~999人		250~499人		100~249人		50~99人		50人未満	
回答市町村数	117	100.0%	115	100.0%	141	100.0%	161	100.0%	100	103.1%	110	96.5%
小児科医	115	98.3%	109	94.8%	137	97.2%	144	89.4%	78	80.4%	89	78.1%
内科(内科小児科)医	55	47.0%	58	50.4%	69	48.9%	67	41.6%	42	43.3%	25	21.9%
眼科医	7	6.0%	6	5.2%	4	2.8%	3	1.9%	5	5.2%	0	0.0%
耳鼻咽喉科医	16	13.7%	7	6.1%	13	9.2%	9	5.6%	7	7.2%	6	5.3%
整形外科医	12	10.3%	11	9.6%	24	17.0%	17	10.6%	8	8.2%	7	6.1%
産婦人科医	7	6.0%	7	6.1%	14	9.9%	8	5.0%	1	1.0%	0	0.0%
その他外科医	3	2.6%	1	0.9%	6	4.3%	4	2.5%	1	1.0%	0	0.0%
総合診療科医	6	5.1%	0	0.0%	2	1.4%	2	1.2%	2	2.1%	5	4.4%
上記以外	15	12.8%	14	12.2%	25	17.7%	33	20.5%	20	20.6%	24	21.1%

市町村が契約している医師数(診療科別)

市町村規模	1,000人以上		500~999人		250~499人		100~249人		50~99人		50人未満	
	mean(人)	SD(人)	mean(人)	SD(人)	mean(人)	SD(人)	mean(人)	SD(人)	mean(人)	SD(人)	mean(人)	SD(人)
契約医師数	110.1	443.9	13.9	14.9	11.9	15.7	7.8	34.1	2.9	2.8	2.1	3.6
小児科医	58.1	263.8	6.7	6.3	4.5	7.9	2.5	3.5	1.8	1.9	2.2	6.7
内科(内科小児科)医	16.4	26.7	8.0	7.5	7.0	6.5	3.5	2.6	2.2	1.9	1.2	0.4
眼科医	14.0	11.2	3.8	3.8	2.0	1.4	1.0	0.0	2.8	3.0		
耳鼻咽喉科医	12.8	18.4	2.9	2.5	2.8	4.6	1.8	1.6	1.0	0.0	1.0	0.0
整形外科医	7.3	8.2	2.7	2.1	3.0	3.3	1.1	0.3	1.0	0.0	1.0	0.0
産婦人科医	1.7	1.1	2.0	1.8	1.4	0.9	1.0	0.0	1.0			
その他外科医	32.7	53.1	1.0		1.0	0.0	1.0	0.0	1.0			
総合診療科医	7.5	5.4			2.0	0.0	1.5	0.7	1.0	0.0	1.2	0.4
上記以外	182.0	482.1	16.9	12.1	15.1	10.2	6.5	5.9	2.3	2.0	2.0	2.4

個別健診における医師の契約状況(9~10か月児健診)

市町村が契約している医師の診療科別の割合

市町村規模	1,000人以上		500~999人		250~499人		100~249人		50~99人		50人未満	
回答市町村数	43	100.0%	16	100.0%	11	100.0%	13	100.0%	4	100.0%	7	100.0%
小児科医	43	100.0%	16	100.0%	11	100.0%	8	61.5%	3	75.0%	7	100.0%
内科(内科小児科)医	31	72.1%	10	62.5%	7	63.6%	3	23.1%	4	100.0%	0	0.0%
眼科医	0	0.0%	1	6.3%	1	9.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
耳鼻咽喉科医	5	11.6%	1	6.3%	1	9.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
整形外科医	3	7.0%	1	6.3%	1	9.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
産婦人科医	17	39.5%	5	31.3%	4	36.4%	1	7.7%	0	0.0%	0	0.0%
その他外科医	2	4.7%	1	6.3%	1	9.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総合診療科医	4	9.3%	0	0.0%	1	9.1%	0	0.0%	1	25.0%	0	0.0%
上記以外	5	11.6%	0	0.0%	2	18.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

市町村が契約している医師数(診療科別)

市町村規模	1,000人以上		500~999人		250~499人		100~249人		50~99人		50人未満	
	mean(人)	SD(人)	mean(人)	SD(人)	mean(人)	SD(人)	mean(人)	SD(人)	mean(人)	SD(人)	mean(人)	SD(人)
契約医師数	62.7	44.3	115.8	173.0	70.0	137.4	102.3	132.9	11.3	6.7	4.0	4.8
小児科医	36.4	37.0	57.0	124.9	25.1	47.7	46.0	100.0	5.3	3.8	2.9	3.2
内科(内科小児科)医	31.7	51.5	58.9	119.1	24.7	53.1	13.3	16.3	5.0	5.7		
眼科医			8.0		2.0							
耳鼻咽喉科医	1.0	0.0	7.0		2.0							
整形外科医	8.0	12.1	19.0		2.0							
産婦人科医	5.2	10.1	10.6	20.9	12.5	22.3	13.0					
その他外科医	1.0	0.0	31.0		34.0							
総合診療科医	13.8	10.1			31.0				1.0			
上記以外	2.0	2.2			4.5	5.0						

＜集計結果5＞ 医師等の研修に関する状況

C. 医師等の研修に関する実態調査																													
1. 自治体が実施している医師・歯科医師への乳幼児健診事業に関する研修についてお尋ねします																													
質問C1: 自治体では、医師または歯科医師に研修を実施していますか	<table border="1"> <tr> <td>1. いない</td> <td>788</td> <td>90.2%</td> <td>n=874</td> </tr> <tr> <td>2. 実施有</td> <td>69</td> <td>7.9%</td> <td>n=874</td> </tr> <tr> <td>2. 医師を対象に実施したことがある(過去5年以内)</td> <td>16</td> <td>39.0%</td> <td>n=41</td> </tr> <tr> <td>3. 歯科医師を対象に実施したことがある(過去5年以内)</td> <td>11</td> <td>45.8%</td> <td>n=24</td> </tr> <tr> <td>4. 定期的(ご実施(医師))</td> <td>25</td> <td>61.0%</td> <td>n=41</td> </tr> <tr> <td>5. 定期的(ご実施(歯科医師))</td> <td>13</td> <td>54.2%</td> <td>n=24</td> </tr> <tr> <td>9. 無回答</td> <td>17</td> <td>1.9%</td> <td>n=874</td> </tr> </table>	1. いない	788	90.2%	n=874	2. 実施有	69	7.9%	n=874	2. 医師を対象に実施したことがある(過去5年以内)	16	39.0%	n=41	3. 歯科医師を対象に実施したことがある(過去5年以内)	11	45.8%	n=24	4. 定期的(ご実施(医師))	25	61.0%	n=41	5. 定期的(ご実施(歯科医師))	13	54.2%	n=24	9. 無回答	17	1.9%	n=874
1. いない	788	90.2%	n=874																										
2. 実施有	69	7.9%	n=874																										
2. 医師を対象に実施したことがある(過去5年以内)	16	39.0%	n=41																										
3. 歯科医師を対象に実施したことがある(過去5年以内)	11	45.8%	n=24																										
4. 定期的(ご実施(医師))	25	61.0%	n=41																										
5. 定期的(ご実施(歯科医師))	13	54.2%	n=24																										
9. 無回答	17	1.9%	n=874																										
質問C1-1: 開催頻度(医師)	<table border="1"> <tr> <td>1. 年1回</td> <td>22</td> <td>53.7%</td> <td>n=41</td> </tr> <tr> <td>2. 数か月に1回</td> <td>5</td> <td>12.2%</td> <td>n=41</td> </tr> <tr> <td>3. 不定期だが事業計画に盛り込んである</td> <td>5</td> <td>12.2%</td> <td>n=41</td> </tr> <tr> <td>4. その他</td> <td>10</td> <td>24.4%</td> <td>n=41</td> </tr> </table>	1. 年1回	22	53.7%	n=41	2. 数か月に1回	5	12.2%	n=41	3. 不定期だが事業計画に盛り込んである	5	12.2%	n=41	4. その他	10	24.4%	n=41												
1. 年1回	22	53.7%	n=41																										
2. 数か月に1回	5	12.2%	n=41																										
3. 不定期だが事業計画に盛り込んである	5	12.2%	n=41																										
4. その他	10	24.4%	n=41																										
質問C1-2: 開催頻度(歯科医師)	<table border="1"> <tr> <td>1. 年1回</td> <td>12</td> <td>50.0%</td> <td>n=24</td> </tr> <tr> <td>2. 数か月に1回</td> <td>2</td> <td>8.3%</td> <td>n=24</td> </tr> <tr> <td>3. 不定期だが事業計画に盛り込んである</td> <td>3</td> <td>12.5%</td> <td>n=24</td> </tr> <tr> <td>4. その他</td> <td>10</td> <td>41.7%</td> <td>n=24</td> </tr> </table>	1. 年1回	12	50.0%	n=24	2. 数か月に1回	2	8.3%	n=24	3. 不定期だが事業計画に盛り込んである	3	12.5%	n=24	4. その他	10	41.7%	n=24												
1. 年1回	12	50.0%	n=24																										
2. 数か月に1回	2	8.3%	n=24																										
3. 不定期だが事業計画に盛り込んである	3	12.5%	n=24																										
4. その他	10	41.7%	n=24																										
質問C2: 研修内容(医師)	<table border="1"> <tr> <td>1. 診察や判定に関すること</td> <td>39</td> <td>95.1%</td> <td>n=41</td> </tr> <tr> <td>2. 保健指導上必要な知識</td> <td>24</td> <td>58.5%</td> <td>n=41</td> </tr> <tr> <td>3. 発達障害や療育に関すること</td> <td>29</td> <td>70.7%</td> <td>n=41</td> </tr> <tr> <td>4. 虐待や子育て支援</td> <td>17</td> <td>41.5%</td> <td>n=41</td> </tr> <tr> <td>5. 精度管理に関すること</td> <td>9</td> <td>22.0%</td> <td>n=41</td> </tr> <tr> <td>6. その他</td> <td>9</td> <td>22.0%</td> <td>n=41</td> </tr> </table>	1. 診察や判定に関すること	39	95.1%	n=41	2. 保健指導上必要な知識	24	58.5%	n=41	3. 発達障害や療育に関すること	29	70.7%	n=41	4. 虐待や子育て支援	17	41.5%	n=41	5. 精度管理に関すること	9	22.0%	n=41	6. その他	9	22.0%	n=41				
1. 診察や判定に関すること	39	95.1%	n=41																										
2. 保健指導上必要な知識	24	58.5%	n=41																										
3. 発達障害や療育に関すること	29	70.7%	n=41																										
4. 虐待や子育て支援	17	41.5%	n=41																										
5. 精度管理に関すること	9	22.0%	n=41																										
6. その他	9	22.0%	n=41																										
質問C3: 研修内容(歯科医師)	<table border="1"> <tr> <td>1. 診察や判定に関すること</td> <td>20</td> <td>83.3%</td> <td>n=24</td> </tr> <tr> <td>2. 保健指導上必要な知識</td> <td>19</td> <td>79.2%</td> <td>n=24</td> </tr> <tr> <td>3. 発達障害や療育に関すること</td> <td>6</td> <td>25.0%</td> <td>n=24</td> </tr> <tr> <td>4. 虐待や子育て支援</td> <td>8</td> <td>33.3%</td> <td>n=24</td> </tr> <tr> <td>5. 精度管理に関すること</td> <td>4</td> <td>16.7%</td> <td>n=24</td> </tr> <tr> <td>6. その他</td> <td>8</td> <td>33.3%</td> <td>n=24</td> </tr> </table>	1. 診察や判定に関すること	20	83.3%	n=24	2. 保健指導上必要な知識	19	79.2%	n=24	3. 発達障害や療育に関すること	6	25.0%	n=24	4. 虐待や子育て支援	8	33.3%	n=24	5. 精度管理に関すること	4	16.7%	n=24	6. その他	8	33.3%	n=24				
1. 診察や判定に関すること	20	83.3%	n=24																										
2. 保健指導上必要な知識	19	79.2%	n=24																										
3. 発達障害や療育に関すること	6	25.0%	n=24																										
4. 虐待や子育て支援	8	33.3%	n=24																										
5. 精度管理に関すること	4	16.7%	n=24																										
6. その他	8	33.3%	n=24																										
質問C4: 都道府県や他団体等が主催する研修会の参加状況の把握	<table border="1"> <tr> <td>1. 医師・歯科医師に情報提供している</td> <td>34</td> <td>3.9%</td> <td>n=874</td> </tr> <tr> <td>2. 参加状況を把握している</td> <td>5</td> <td>0.6%</td> <td>n=874</td> </tr> <tr> <td>3. 設置や参加費の予算がある又は確保が可能</td> <td>3</td> <td>0.3%</td> <td>n=874</td> </tr> <tr> <td>4. 参加状況把握なし</td> <td>621</td> <td>71.1%</td> <td>n=874</td> </tr> <tr> <td>5. その他</td> <td>2</td> <td>0.2%</td> <td>n=874</td> </tr> </table>	1. 医師・歯科医師に情報提供している	34	3.9%	n=874	2. 参加状況を把握している	5	0.6%	n=874	3. 設置や参加費の予算がある又は確保が可能	3	0.3%	n=874	4. 参加状況把握なし	621	71.1%	n=874	5. その他	2	0.2%	n=874								
1. 医師・歯科医師に情報提供している	34	3.9%	n=874																										
2. 参加状況を把握している	5	0.6%	n=874																										
3. 設置や参加費の予算がある又は確保が可能	3	0.3%	n=874																										
4. 参加状況把握なし	621	71.1%	n=874																										
5. その他	2	0.2%	n=874																										
質問C5: 医師・歯科医師に研修受講を義務付けていますか	<table border="1"> <tr> <td>1. 契約的条件としている</td> <td>6</td> <td>0.7%</td> <td>n=874</td> </tr> <tr> <td>2. できる限り研修受講するよう勧奨している</td> <td>11</td> <td>1.3%</td> <td>n=874</td> </tr> <tr> <td>3. 特に取り決めはない</td> <td>713</td> <td>81.6%</td> <td>n=874</td> </tr> <tr> <td>4. 必要性は感じるが現実的でない</td> <td>59</td> <td>6.8%</td> <td>n=874</td> </tr> <tr> <td>5. その他</td> <td>4</td> <td>0.5%</td> <td>n=874</td> </tr> <tr> <td>9. 無回答</td> <td>81</td> <td>9.3%</td> <td>n=874</td> </tr> </table>	1. 契約的条件としている	6	0.7%	n=874	2. できる限り研修受講するよう勧奨している	11	1.3%	n=874	3. 特に取り決めはない	713	81.6%	n=874	4. 必要性は感じるが現実的でない	59	6.8%	n=874	5. その他	4	0.5%	n=874	9. 無回答	81	9.3%	n=874				
1. 契約的条件としている	6	0.7%	n=874																										
2. できる限り研修受講するよう勧奨している	11	1.3%	n=874																										
3. 特に取り決めはない	713	81.6%	n=874																										
4. 必要性は感じるが現実的でない	59	6.8%	n=874																										
5. その他	4	0.5%	n=874																										
9. 無回答	81	9.3%	n=874																										

質問C6: 医師・歯科医師向けの業務説明会を実施していますか	<table border="1"> <tr> <td>1. 実施有</td> <td>659</td> <td>75.4%</td> <td>n=874</td> </tr> <tr> <td>1. 毎年度開催</td> <td>54</td> <td>9.7%</td> <td>n=659</td> </tr> <tr> <td>2. 新規契約医師等に対して個別に説明</td> <td>486</td> <td>73.7%</td> <td>n=659</td> </tr> <tr> <td>3. その他</td> <td>125</td> <td>19.0%</td> <td>n=659</td> </tr> <tr> <td>2. 実施無</td> <td>99</td> <td>11.3%</td> <td>n=874</td> </tr> <tr> <td>9. 無回答</td> <td>116</td> <td>13.3%</td> <td>n=874</td> </tr> </table>	1. 実施有	659	75.4%	n=874	1. 毎年度開催	54	9.7%	n=659	2. 新規契約医師等に対して個別に説明	486	73.7%	n=659	3. その他	125	19.0%	n=659	2. 実施無	99	11.3%	n=874	9. 無回答	116	13.3%	n=874				
1. 実施有	659	75.4%	n=874																										
1. 毎年度開催	54	9.7%	n=659																										
2. 新規契約医師等に対して個別に説明	486	73.7%	n=659																										
3. その他	125	19.0%	n=659																										
2. 実施無	99	11.3%	n=874																										
9. 無回答	116	13.3%	n=874																										
質問C7: 医師・歯科医師向けに共通の「診断手引き等」を利用していますか	<table border="1"> <tr> <td>1. 市町村作成のものを利用</td> <td>51</td> <td>5.8%</td> <td>n=874</td> </tr> <tr> <td>2. 都道府県作成のものを利用</td> <td>146</td> <td>16.7%</td> <td>n=874</td> </tr> <tr> <td>3. 医師会作成のものを利用</td> <td>9</td> <td>1.0%</td> <td>n=874</td> </tr> <tr> <td>4. 一般書籍を利用</td> <td>14</td> <td>1.6%</td> <td>n=874</td> </tr> <tr> <td>5. 医師・歯科医師に任せている</td> <td>523</td> <td>59.8%</td> <td>n=874</td> </tr> <tr> <td>6. その他</td> <td>40</td> <td>4.6%</td> <td>n=874</td> </tr> <tr> <td>9. 無回答</td> <td>91</td> <td>10.4%</td> <td>n=874</td> </tr> </table>	1. 市町村作成のものを利用	51	5.8%	n=874	2. 都道府県作成のものを利用	146	16.7%	n=874	3. 医師会作成のものを利用	9	1.0%	n=874	4. 一般書籍を利用	14	1.6%	n=874	5. 医師・歯科医師に任せている	523	59.8%	n=874	6. その他	40	4.6%	n=874	9. 無回答	91	10.4%	n=874
1. 市町村作成のものを利用	51	5.8%	n=874																										
2. 都道府県作成のものを利用	146	16.7%	n=874																										
3. 医師会作成のものを利用	9	1.0%	n=874																										
4. 一般書籍を利用	14	1.6%	n=874																										
5. 医師・歯科医師に任せている	523	59.8%	n=874																										
6. その他	40	4.6%	n=874																										
9. 無回答	91	10.4%	n=874																										
質問C8: 医師・歯科医師向けの業務説明書を作成していますか	<table border="1"> <tr> <td>1. 作成なし</td> <td>632</td> <td>72.3%</td> <td>n=874</td> </tr> <tr> <td>2. 作成有</td> <td>174</td> <td>19.9%</td> <td>n=874</td> </tr> <tr> <td>1. 医師向けのものを作成</td> <td>59</td> <td>33.9%</td> <td>n=174</td> </tr> <tr> <td>2. 歯科医師向けのものを作成</td> <td>40</td> <td>23.0%</td> <td>n=174</td> </tr> <tr> <td>3. 従事者全体のものを作成</td> <td>94</td> <td>54.0%</td> <td>n=174</td> </tr> <tr> <td>4. その他</td> <td>24</td> <td>13.8%</td> <td>n=174</td> </tr> <tr> <td>9. 無回答</td> <td>68</td> <td>7.8%</td> <td>n=874</td> </tr> </table>	1. 作成なし	632	72.3%	n=874	2. 作成有	174	19.9%	n=874	1. 医師向けのものを作成	59	33.9%	n=174	2. 歯科医師向けのものを作成	40	23.0%	n=174	3. 従事者全体のものを作成	94	54.0%	n=174	4. その他	24	13.8%	n=174	9. 無回答	68	7.8%	n=874
1. 作成なし	632	72.3%	n=874																										
2. 作成有	174	19.9%	n=874																										
1. 医師向けのものを作成	59	33.9%	n=174																										
2. 歯科医師向けのものを作成	40	23.0%	n=174																										
3. 従事者全体のものを作成	94	54.0%	n=174																										
4. その他	24	13.8%	n=174																										
9. 無回答	68	7.8%	n=874																										
質問C9: 医師・歯科医師と健診結果について協議する場(健診後のカンファレンス等は除く)がありますか	<table border="1"> <tr> <td>1. 実施なし</td> <td>97</td> <td>11.1%</td> <td>n=874</td> </tr> <tr> <td>2. 実施有</td> <td>688</td> <td>78.7%</td> <td>n=874</td> </tr> <tr> <td>1. 定期的な会議を開催</td> <td>92</td> <td>13.4%</td> <td>n=688</td> </tr> <tr> <td>2. 個別に対応している</td> <td>537</td> <td>78.1%</td> <td>n=688</td> </tr> <tr> <td>3. その他</td> <td>71</td> <td>10.3%</td> <td>n=688</td> </tr> <tr> <td>9. 無記入</td> <td>89</td> <td>10.2%</td> <td>n=874</td> </tr> </table>	1. 実施なし	97	11.1%	n=874	2. 実施有	688	78.7%	n=874	1. 定期的な会議を開催	92	13.4%	n=688	2. 個別に対応している	537	78.1%	n=688	3. その他	71	10.3%	n=688	9. 無記入	89	10.2%	n=874				
1. 実施なし	97	11.1%	n=874																										
2. 実施有	688	78.7%	n=874																										
1. 定期的な会議を開催	92	13.4%	n=688																										
2. 個別に対応している	537	78.1%	n=688																										
3. その他	71	10.3%	n=688																										
9. 無記入	89	10.2%	n=874																										
質問C10: 医師・歯科医師に健診後のフォローアップや地域の備蓄体制を周知していますか	<table border="1"> <tr> <td>1. 周知しておりほぼ理解されている</td> <td>289</td> <td>33.1%</td> <td>n=874</td> </tr> <tr> <td>2. 周知しているがあまり理解されていない</td> <td>96</td> <td>11.0%</td> <td>n=874</td> </tr> <tr> <td>3. 周知の機会がない</td> <td>300</td> <td>34.3%</td> <td>n=874</td> </tr> <tr> <td>4. その他</td> <td>117</td> <td>13.4%</td> <td>n=874</td> </tr> <tr> <td>9. 無記入</td> <td>72</td> <td>8.2%</td> <td>n=874</td> </tr> </table>	1. 周知しておりほぼ理解されている	289	33.1%	n=874	2. 周知しているがあまり理解されていない	96	11.0%	n=874	3. 周知の機会がない	300	34.3%	n=874	4. その他	117	13.4%	n=874	9. 無記入	72	8.2%	n=874								
1. 周知しておりほぼ理解されている	289	33.1%	n=874																										
2. 周知しているがあまり理解されていない	96	11.0%	n=874																										
3. 周知の機会がない	300	34.3%	n=874																										
4. その他	117	13.4%	n=874																										
9. 無記入	72	8.2%	n=874																										

C. 医師等の研修に関する実態調査

2. 貴自治体が実施している医師・歯科医師以外の従事者への乳幼児保健事業に関する研修についてお尋ねします

質問C11: 貴自治体では、医師または歯科医師以外の従事者への研修を実施していますか	1. いない	539	61.7%	n=874
	2. 実施有	303	34.7%	n=874
	2. 実施したことがある(過去5年以内)	131	43.2%	n=303
	3. 定期的に実施している	123	40.6%	n=303
	4. その他	34	11.2%	n=303
	5. 他機関研修で実施(自由記述から抽出)	15	5.0%	n=303
	9. 無記入	32	3.7%	n=874

質問C11-1: 開催頻度(従事者)	1. 年1回	122	40.3%	n=303
	2. 数か月1回	78	9.2%	n=303
	3. 不定期だが事業計画に盛り込んである	22	23.8%	n=303
	4. その他	-	-	n=303
	9. 無記入	81	26.7%	n=303

質問C11-2: 研修対象	1. 保健師(常勤)	187	61.7%	n=303
	2. 保健師(非常勤)	164	54.1%	n=303
	3. 助産師	84	27.7%	n=303
	4. 看護師	122	40.3%	n=303
	5. (管理)栄養士(常勤)	100	33.0%	n=303
	6. (管理)栄養士(非常勤)	94	31.0%	n=303
	7. 歯科衛生士(常勤)	54	17.8%	n=303
	8. 歯科衛生士(非常勤)	101	33.3%	n=303
	9. 心理職	58	19.1%	n=303
	10. 保育士	65	21.5%	n=303
	11. その他	40	13.2%	n=303

質問C11-3: 研修内容(従事者)	1. 計測や判定に関すること	98	32.3%	n=303
	2. 保健指導上必要な知識	210	69.3%	n=303
	3. 発達障害や療育に関すること	200	66.0%	n=303
	4. 虐待や子育て支援	151	49.8%	n=303
	5. 精選管理に関すること	47	15.5%	n=303
	6. その他	44	14.5%	n=303

質問C12: 従事者(非常勤)に研修受講を義務付けていますか	1. 契約の条件としている	2	0.2%	n=874
	2. できる限り研修受講をよう勧奨している	153	17.5%	n=874
	3. 特に取り決めはない	586	67.0%	n=874
	4. 必要性は感じるが現実的でない	32	3.7%	n=874
	5. その他	8	0.9%	n=874
	6. 研修を実施していない(自由記述から抽出)	3	0.3%	n=874
	9. 無記入	90	10.3%	n=874

質問C12-1: C12の研修は業務として実施(賞金あり)	1. 業務として実施(賞金あり)	130	14.9%	n=874
	2. 業務として実施する場合がある	141	16.1%	n=874
	3. すべて業務ではない(賞金なし)	221	25.3%	n=874
	4. その他	20	2.3%	n=874
	6. 研修を実施していない(自由記述から抽出)	24	2.7%	n=874
	9. 無記入	338	38.7%	n=874

質問C13: 従事者向けの業務説明会を実施していますか	1. 実施有	729	83.4%	n=874
	1. 毎年度開催	126	17.3%	n=874
	2. 研修契約時に個別に説明	546	74.9%	n=729
	3. その他	85	11.7%	n=729
	2. 実施無	69	7.9%	n=874
	9. 無回答	76	8.7%	n=874

質問C14: 従事者向けの業務説明書を作成していますか	1. 作成している	303	34.7%	n=874
	2. 作成していない	472	54.0%	n=874
	3. その他	50	5.7%	n=874
	9. 無回答	49	5.6%	n=874

質問C15: 都道府県や他団体が主催する研修会の参加(非常勤)	1. 従事者に情報提供している	516	59.0%	n=874
	2. 参加状況を把握している	307	35.1%	n=874
	3. 旅費や参加費の予算がある又は確保が可能	369	42.2%	n=874
	4. 参加状況を把握なし	171	19.6%	n=874
	5. その他	6	0.7%	n=874

質問C16: 都道府県や他団体が主催する研修会の参加(非常勤)	1. 従事者に情報提供している	345	39.5%	n=874
	2. 参加状況を把握している	67	7.7%	n=874
	3. 旅費や参加費の予算がある又は確保が可能	81	9.3%	n=874
	4. 参加状況を把握なし	477	54.6%	n=874
	5. その他	18	2.1%	n=874

質問C16-1: 対象職種(C16で3の回答のみ)	2. 保健師(非常勤)	57	70.4%	n=81
	3. 助産師	24	29.6%	n=81
	4. 看護師	27	33.3%	n=81
	6. (管理)栄養士(非常勤)	40	49.4%	n=81
	8. 歯科衛生士(非常勤)	32	39.5%	n=81
	9. 心理職	9	11.1%	n=81
	10. 保育士	12	14.8%	n=81
	11. その他	6	7.4%	n=81

質問C16-1: 対象職種(C16で3以外にも回答)	2. 保健師(非常勤)	257	-	n=874
	3. 助産師	119	-	n=874
	4. 看護師	137	-	n=874
	6. (管理)栄養士(非常勤)	176	-	n=874
	8. 歯科衛生士(非常勤)	157	-	n=874
	9. 心理職	53	-	n=874
	10. 保育士	52	-	n=874
	11. その他	16	-	n=874

質問C17: 従事者と健診結果について協議する場(健診除く)がありますか	1. 実施なし	60	6.9%	n=874
	2. 実施有	735	84.1%	n=874
	1. 定期的(1. 定期的)に会議を開催	141	19.2%	n=735
	2. 個別に対応している	582	79.2%	n=735
	3. その他	33	4.5%	n=735
	9. 無記入	79	9.0%	n=874

質問C18: 従事者に健診後のフォローアップや地域の療育体制を周知していますか	1. 周知しておりほぼ理解されている	601	68.0%	n=874
	2. 周知しているがあまり理解されていない	42	4.8%	n=874
	3. 周知しているが理解が深い	118	13.5%	n=874
	5. 周知していない	38	4.1%	n=874
	4. その他	31	3.5%	n=874
	9. 無記入	22	2.5%	n=874

＜集計結果6＞ 推奨問診項目の活用状況

B:「手引き」に示した推奨問診項目の活用状況			
1. 3～4か月児健診の推奨問診項目の活用についてお尋ねします			
質問B1:推奨問診項目(全13項目)を取り入れていますか	1.全項目取り入れている 2.一部の項目を取り入れている 3.全く取り入れていない 4.その他 9.無回答	145 666 46 6 11	16.6% 76.2% 5.3% 0.7% 1.3%
質問B2:推奨問診項目を取り入れる予定はありますか	1.すでに取り入れている 2.平成30年度に全項目取り入れる予定 3.平成30年度に一部項目を取り入れる予定 4.今後とも取り入れる予定はない(未定含む) 9.無回答	362 19 55 405 33	41.4% 2.2% 6.3% 46.3% 3.8%
質問B13:保護者の学歴を聞いていますか	1.いいえ 2.はい(「手引き」の質問と選択肢を用いている) 3.はい(「手引き」とは異なる質問・選択肢等を用いている) 9.無回答	847 9 2 16	96.9% 1.0% 0.2% 1.8%
質問B14:保護者の学歴を問う項目を取り入れる予定はありますか	1.すでに取り入れている 2.平成30年度に全項目取り入れる予定 3.今後とも取り入れる予定はない(未定含む) 9.無回答	7 10 841 16	0.8% 1.1% 96.2% 1.8%
質問B15:スマホ育児の項目を取り入れていますか	1.いいえ 2.はい(「手引き」の質問と選択肢を用いている) 3.はい(「手引き」とは異なる質問・選択肢等を用いている) 9.無回答	795 21 42 16	91.0% 2.4% 4.8% 1.8%
2. 1歳6か月児健診の推奨問診項目の活用についてお尋ねします			
質問B21:推奨問診項目(全15項目)を取り入れていますか	1.全項目取り入れている 2.一部の項目を取り入れている 3.全く取り入れていない 4.その他 9.無回答	157 689 11 2 15	18.0% 78.8% 1.3% 0.2% 1.7%
質問B22:推奨問診項目を取り入れる予定はありますか	1.すでに取り入れている 2.平成30年度に全項目取り入れる予定 3.平成30年度に一部項目を取り入れる予定 4.今後とも取り入れる予定はない(未定含む) 9.無回答	373 20 59 395 27	42.7% 2.3% 6.8% 45.2% 3.1%
質問B23:スマホ育児の項目を取り入れていますか	1.いいえ 2.はい(「手引き」の質問と選択肢を用いている) 3.はい(「手引き」とは異なる質問・選択肢等を用いている) 9.無回答	747 35 76 16	85.5% 4.0% 8.7% 1.8%
3. 3歳児健診の推奨問診項目の活用についてお尋ねします			
質問B31:推奨問診項目(全15項目)を取り入れていますか	1.全項目取り入れている 2.一部の項目を取り入れている 3.全く取り入れていない 4.その他 9.無回答	151 693 12 3 15	17.3% 79.3% 1.4% 0.3% 1.7%
質問B32:推奨問診項目を取り入れる予定はありますか	1.すでに取り入れている 2.平成30年度に全項目取り入れる予定 3.平成30年度に一部項目を取り入れる予定 4.今後とも取り入れる予定はない(未定含む) 9.無回答	366 20 62 398 28	41.9% 2.3% 7.1% 45.5% 3.2%
質問B33:スマホ育児の項目を取り入れていますか	1.いいえ 2.はい(「手引き」の質問と選択肢を用いている) 3.はい(「手引き」とは異なる質問・選択肢等を用いている) 9.無回答	742 31 87 14	84.9% 3.5% 10.0% 1.6%

乳幼児健診における医師の診察等の実施項目に関する検討

小枝達也

国立研究開発法人国立成育医療研究センター こころの診療部

山崎嘉久

あいち小児保健医療総合センター 保健センター

要旨

乳幼児健康診査（以下、「乳幼児健診」とする。）における医師の診察等の実施項目について検討するため 213 市町村（3～4 か月児健診 203 か所、9～10 か月児健診 113 か所、1 歳 6 か月児健診 211 か所、3 歳児健診 213 か所）の帳票（カルテ及び問診票）から、医師の診察等の実施項目に関するデータセットを作成した。これを「厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知「乳幼児に対する健康診査の実施について」の一部改正について（雇児発 0911 第 1 号 平成 27 年 9 月 11 日）」の通知（別添 5）から抽出した A 群～Q 群 175 項目に対応させ、各項目に合致する市町村の頻度を、区分 A：90%以上、区分 B：90%～75%、区分 C：75%～25%、区分 D：25%～10%、区分 E：10%以下に分類した。その結果、区分 A であったのは、E 群：身体測定「1.身長(cm)」(3～4 か月児健診、9～10 か月児健診、1 歳 6 か月児健診、3 歳児健診)、「2.体重(g)」(3～4 か月児健診)、「3.体重(kg)」(1 歳 6 か月児健診、3 歳児健診)、「5.頭囲(cm)」(3～4 か月児健診)であった。医師の診察等の標準的な項目を検討するため、市町村の帳票のデータセットと合致する頻度に基づいて選定するための考え方や留意点について考察した。

【はじめに】

乳幼児健康診査（以下、「乳幼児健診」とする。）は、長い歴史と多くの成果があり、現在も高い受診率が得られているが、「「健やか親子 2 1（第 2 次）」について検討会報告書」（平成 26 年 4 月）では、乳幼児健康診査における問診内容や健康診査時の手技が標準化されておらず、診察する医師や関わる看護職等のスタッフの技量により結果が大きく異なるとの指摘がある。

乳幼児健診事業で実施すべき健診項目については、厚生労働省雇用均等・児童家庭局

長通知「乳幼児に対する健康診査の実施について」の一部改正について（雇児発 0911 第 1 号 平成 27 年 9 月 11 日）（以下、「通知」とする。）により、乳幼児健診の実施項目と「基本情報票」や「健康診査票」等の帳票が例示されている。しかし、市町村が乳幼児健診に用いている健診項目に関する調査は行われておらず、実態把握が必要である。

【目的】

市町村が乳幼児健診事業に用いている帳票（カルテ及び問診票）から医師の診察等の

実施項目のデータセットを作成し、その解析を行うこと。

【対象】

医師が診察に利用している「カルテ」（医師の診察項目（身体計測等も含む）、および「問診票」（疾病のスクリーニングとして質問している問診項目等が記述されたもの）など、乳幼児健診に市町村が用いている帳票（以下、「帳票」とする。）の項目を対象とした。対象市町村は、「研究課題 2-1 乳幼児健診における医師の診察項目、精度管理、医師研修に関する実態調査」に回答が得られた 874 市町村のうち、46 都道府県から健診対象者数を考慮して各 5 か所程度、及び沖縄県は統一帳票のため 1 か所を抽出した。

【方法】

通知の（別添 5）にある「基本情報票」、「か月児健康診査票（参考として 3～4 か月児健康診査票を掲げる）」、「1 歳 6 か月児健康診査票」および「3 歳児健康診査票」に示された項目のうち、疾病のスクリーニングや発達に関わる項目を中心に、健診データが把握される時期、疾病スクリーニングとしての健診時の所見、所見を把握する担当者（医師、保健師ほかのスタッフ）、事後指導の方針とその担当者などのポイントを定めて分類を試みた。なお、氏名や住所等の個人情報に関する項目、予防接種に関する項目や「1 歳 6 か月児健康診査票」および「3 歳児健康診査票」に示された「歯科所見、軟組織異常、咬合異常、清掃不良、その他口腔所見の異常」は除外した。通知の（別添 5）に示された「基本情報票」および「健康診査票」の項目をコード化し、

その内容から A 群：妊娠・出産 15 項目、B 群：新生児期 6 項目、C 群：授乳 2 項目、D 群：新生児期検査 5 項目、E 群：身体測定 7 項目、F 群：既往症 2 項目、G 群：小児科医所見 73 項目、H 群：小児科医所見の判定 7 項目、I 群：眼科医所見 8 項目、J 群：眼科医所見の判定 7 項目、K 群：耳鼻咽喉科医所見 8 項目、L 群：耳鼻咽喉科医所見の判定 7 項目、M 群：検尿所見 4 項目、N 群：保健指導等の所見 6 項目、O 群：保健指導の判定（総合判定を含む）5 項目、P 群：子どもの発達や病気に関する問診 10 項目、Q 群：フォローアップ結果 2 項目の大分類を作成した（表 1）。

このうち G 群は、医師診察の中核となる分類であるため、「健康診査票」の項目に従って中分類を設け、G01 群：身体的発育異常 2 項目、G02 群：精神発達障害 6 項目、G03 群：けいれん 3 項目、G04 群：運動発達異常 4 項目、G05 群：神経系・感覚器系の異常 9 項目、G06 群：血液疾患 3 項目、G07 群：皮膚疾患 4 項目、G08 群：股関節 3 項目、G09 群：斜頸 2 項目、G10 群：循環器系疾患 3 項目、G11 群：呼吸器系疾患 4 項目、G12 群：消化器系疾患 6 項目、G13 群：泌尿器系疾患 4 項目、G14 群：先天性代謝異常 2 項目、G15 群：先天性形態異常 6 項目、G16 群：その他の異常 2 項目、G17 群：生活習慣上の問題 4 項目、G18 群：情緒行動上の問題 6 項目とした（表 2）。

A 群から Q 群の計 175 項目に対して、市町村の帳票の項目を対応させたデータセットを作成した。「まったく同一の項目」および「表現は異なるが同様な意味を持つ項目」を合わせ、帳票の項目の該当頻度等について解析した。

なお、「A群別項目」などした項目は、A群に属する内容ではあるが、それぞれの項目とは異なる疾病や徴候を意味する場合に集計する項目とし、大分類に19項目、G群中分類に18項目含めた。

これらの項目が、帳票の項目とマッチする市町村の頻度を、区分A：90%以上、区分B：90%～75%、区分C：75%～25%、区分D：25%～10%、区分E：10%以下に整理した。

(倫理面への配慮)

本研究には、倫理面に配慮が必要な内容は含まれていない。

【結果】

分析対象は213市町村で、都道府県別には平均4.6か所、最大8か所(北海道)、最小2か所(富山県、福井県、大分県)、沖縄県1か所(共通帳票利用)であり、健診対象別には、3～4か月児健診203か所、9～10か月児健診113か所、1歳6か月児健診211か所、3歳児健診213か所であった。

1) 基本情報票の項目(表3)

A群：妊娠・出産15項目、B群：新生児期6項目、C群：授乳3項目、D群：新生児期検査5項目は、「基本情報票」の項目である。市町村の帳票では、家族状況や妊婦の情報などを記載した帳票に記述される場合や各健診ごとの帳票の一部として記述される場合があった。今回の集計では、基本的に3～4か月児健診の帳票の項目に含めて集計し、9～10か月児健診、1歳6か月児健診、3歳児健診の帳票に記述されている場合にはそれぞれに集計した。

3～4か月児健診のA群～D群の項目の出現頻度は、多くが区分Cであり、C群：授乳「栄養方法1.授乳：母乳・人工乳・混合」のみが区分Bであった。

2) 身体測定及び既往症の項目(表4)

E群：身体測定7項目のうち、「1.身長(cm)」はすべての健診で、「2.体重(g)」は3～4か月児健診、「3.体重(kg)」は1歳6か月児健診、3歳児健診で区分Aであった。身長や体重に該当がなかった帳票は、計測値ではなくパーセンタイル区分などのみで記述される場合などであった。また3～4か月児健診と9～10か月児健診で、「1.身長(cm)」の頻度より「2.体重(g)」の頻度が少ないのは、「2.体重(g)」ではなく「3.体重(kg)」で記述されている場合に、集計上E群別項目となったためなどであった。

「4.胸囲(cm)」は9～10か月児健診で区分B、「5.頭囲(cm)」は、3～4か月児健診では区分A、9～10か月児健診と1歳6か月児健診では区分Bであった。

「6.カウプ指数」は、すべての健診で区分Cであったが、E群別項目に、パーセンタイル区分値や肥満度、ローレス指数、BMIなどの指標が含まれており、「9.E群別項目」の該当数や平均値、最大値は比較的大きな値となった。追加調査を用いてこれらの頻度を集計する予定である。

F群：既往症2項目については、通知の項目である「1.既往症1.無・有()」とともに、具体的な病名が記述されていることが多く「9.F群別項目」に該当する市町村が多く、その項目数も比較的多く認められた。

3) 小児科医の診察所見(表5)

G群：小児科医所見は、73項目（別項目18項目を含む）の具体的な疾病や徴候を分類するものであるが、区分Bは、3～4か月児健診のG08群：股関節「1.開排制限」と、1歳6か月児健診、3歳児健診のG07群：皮膚疾患「9.G07群別項目」で、他は区分C～区分Eであった。

特にG06群：血液疾患3項目、G17群：生活習慣上の問題4項目はすべて区分Dまたは区分Eであった。

G16群：その他の異常は、上記の中分類に含めることができないものを分類した。その主なものは、一般外来の小児科診察項目である顔色や表情・機嫌、口腔内の舌や咽頭や扁桃の所見・舌小帯短縮・驚口瘡、頸部の腫瘤・リンパ節腫脹・甲状腺腫、内分泌・代謝疾患、乳腺腫大などが3～4か月児健診、9～10か月児健診、1歳6か月児健診、3歳児健診を通じて認められたが、その頻度は10%に満たなかった。

特異な項目として、被虐待跡（愛知県共通項目）や育児環境（外傷・骨折・あざ）の項目が一部に認められた。沖縄県と他のごく一部で血液検査を用いた血色素量(g/dl)の項目が認められた。

4) 小児科医診察所見の判定（表6）

H群：小児科医所見の判定の7項目は、基本的には、国の地域保健・健康増進事業報告の2(2)母子保健（健康診査）の一般健康診査に対する「異常なし」、「既医療」、「要観察」、「要医療（再掲）精神面・（再掲）身体面」「要精密」の区分に基づいている。市町村の帳票での該当状況は、「1.異常なし」、「3.要経過観察」、「4.要紹介（要精密）」はすべての健診で区分Aまたは区分Bであ

り、ほとんどの市町村が利用している項目である。これらの項目の市町村ごとの平均値は2～5項目と比較的高い値を示し、最大項目数では100項目を越える場合も認められた。その理由は、複数の所見に対してこの判定区分を用いているためである。

具体的には総合判定、精神面、身体面、精神発達、運動発達などの項目を用いている場合や、G群中分類の項目のすべてに判定区分を充てている場合（最大項目数が100を超えた市町村は、要精密と要医療を別に集計しているため該当数が倍になった）、医師による反射所見、整形外科医所見、腎臓検診所見・検尿所見に対する判定など、きわめて多彩な状況であった。

5) 視覚・聴覚・尿検査（表7）

I群からM群の35項目は、3歳児健診において視覚検査、聴覚検査や尿検査が多く実施されていることから、3歳児健診の該当頻度について分析した。

区分Bは、M群「1.検尿 1. 蛋白（－・±・＋）」と「1.検尿 2. 糖（－・±・＋）」であり、他は区分Cから区分Eであった。

6) 保健指導等の所見と判定（表8）

N群：保健指導等の所見6項目で、区分Bとなったのは、3～4か月児健診、1歳6か月児健診、3歳児健診の「9.N群別項目」であり、「3.栄養指導 1.良・要指導」はすべての健診で区分C、「1.育児指導等」3項目はすべての健診で区分Eであった。育児指導等の所見と同じ内容の項目が、今回は集計対象外とした子育てや生活習慣、親や家庭の状況などの問診等や自由記載欄に極めて多数の項目が帳票に認められていたが、今

回は、所見の有無を分類している項目のみについて該当数を集計した。

O群：保健指導の判定（総合判定を含む）5項目は、ほとんどが区分Cまたは区分Dであった。医師の診察所見とは別に総合判定や保健師等による保健指導の判定として、**H群**の同様の区分を用いている場合は、医師の所見に対する**H群**と区別して「**9.O群別項目**」に集計した。

Q群：フォローアップ結果2項目のうち、「1.記事」のように自由記述である場合はごく少数であった。国の地域保健・健康増進事業報告の2(2)母子保健（健康診査）の精密健康診査の受診結果に対する「異常なし」、「要観察」、「要医療（再掲）精神面・（再掲）身体面」の区分を用いるなど医師診察所見の判定で、精密検査等が必要となった場合に、精密検査の結果を医療機関等から把握して記述している場合や、保健指導後のフォローアップ結果を記述する項目も「**9.Q群別項目**」に対応させたが、その頻度は区分Cまたは区分Dであった。

7) 子どもの発達や病気に関する問診項目（表9）

P群：子どもの発達や病気に関する問診10項目のうち「1.発達（問診）1. 笑う（ ）か月」から「1.発達（問診）9. 二語文（ ）歳（ ）か月」に該当する市町村の帳票項目は、「はい・いいえ」の選択肢など発達が通過したかどうかを尋ねる形式が多くを占めていた。これらを同じ意味の項目として集計した。区分Bまたは区分Cであった項目は、3～4か月児健診では、「1.笑う（ ）か月」から「4. 人の声のするほうに向く（ ）か月」、9～10か月児健診では、「4. 人の声

のするほうに向く（ ）か月」から「6.お座り（ ）か月」、1歳6か月児健診では「7. 発語（ ）か月」と「8.ひとり歩き（ ）か月」、3歳児健診では、「9. 二語文（ ）歳（ ）か月」と、子どもの発達過程の順序に沿った出現頻度であった。

保健師等が発達について問診する際に、積み木や絵カードなどを用いて観察や検査をする項目（保健師等による子どもの発達の観察や検査項目）については、医師の発達の所見と区別するため「**9.P群別項目**」に集計した。なお、問診の中には、「歩き方や足の形など気になること」、「聞こえが悪い」、「目が見えにくい」、「くせ（指しゃぶり、どもり、性器いじりなど）」など、発達と病気の区別が曖昧な項目も認めたことから、これらすべてを「**9.P群別項目**」に含めた。このため**P群**を「子どもの発達や病気に関する問診」としたが、疾患の有無を尋ねる問診は**F群**：既往症に分類されており、ほとんどは発達に関連した内容を含んだ内容となっていた。

「**9.P群別項目**」はほとんどの市町村の帳票に含まれ、市町村ごとの項目の平均値、最大値とも極めて高値であり、特に1歳6か月児健診では、平均値26.4項目、最大値79項目、3歳児健診では、平均値30.2項目、最大値102項目であった。

なお、上記の**A群**から**Q群**の分類に当てはめることができない項目として、受診態度（機嫌がよい・泣いている・その他）や、3歳児健診で1歳6か月児健康診査の状況を把握している項目などが認められたが、いずれもごく少数であった。

【考察】

今回の調査により、全国213市町村から得

られた3～4か月児健診、9～10か月児健診、1歳6か月児健診、3歳児健診に用いられている帳票の項目を、通知の(別添5)に示された項目に対応させたデータセットを作成し、その出現頻度を分析することができた。本調査の解析結果は、市町村の帳票における出現頻度に基づいて、標準的な医師診察等の実施項目を検討する基礎資料としての活用が期待されている。このため標準的な項目を選定するための考え方について考察した。

標準化の適合性を検討するものである視点から、出現頻度が区分A(90%以上)であることは、標準項目の候補として「適当」と判定することができる。一方、出現頻度が区分D(25%～10%)または区分E(10%以下)であり、かつその項目を含む群の別項目も区分Dまたは区分Eである場合は、標準項目の候補として「不適当」と判定すべきであろう。

両者以外の出現頻度の項目については、出現頻度のみから標準項目の候補としての適否を判定するのではなく、臨床的な意義を加味した検討が必要な項目(「要検討:臨床的意義」)、または標準的な項目の検討が必要な項目(「要検討:要標準項目」と判定する考え方を示した。

データセット化した175項目のうち、通知の(別添5)から抽出した138項目(分析のために設けた各群別項目37項目、及びH群の項目を除く)の中で、区分Aであったのは、E群:身体測定「1.身長(cm)」(3～4か月児健診、9～10か月児健診、1歳6か月児健診、3歳児健診)、「2.体重(g)」(3～4か月児健診)、「3.体重(kg)」(1歳6か月児健診、3歳児健診)、「5.頭囲(cm)」(3～4か

月児健診)であった。

E群:身体測定「2.体重(g)」のうち9～10か月児健診は区分Bであった。今回調査では、9～10か月児健診で「3.体重(kg)」であった場合は「E群別項目」に集計することとした。「2.体重(g)」と「3.体重(kg)」をいずれかに統一すれば、区分Aとなる可能性がある。

このように、区分B(90%～75%)であっても、その項目を含む群の別項目が区分C(75%～25%)である場合には、別項目とした内容によっては、標準項目の候補と考えられる。これに該当したのは、C群:授乳「1.授乳:母乳・人工乳・混合」(3～4か月児健診)、G08群:股関節「1.開排制限」(3～4か月児健診)、M群:検尿「1.蛋白(-・±・+)」(3歳児健診)と「2.糖(-・±・+)」(3歳児健診)であった。このうちM群:検尿(3歳児健診)については、標準項目とするためには、有所見率の検討が必要と考えられた。

また、「4.胸囲(cm)」(9～10か月児健診)、「5.頭囲(cm)」(9～10か月児健診、1歳6か月児健診)については、「E群別項目」に集計される頻度は少なく、「要検討:臨床的意義」と判断した。

対象項目の出現頻度が区分D(25%～10%)または区分E(10%以下)であり、かつその項目を含む群の別項目も区分Dまたは区分Eであったのは、G06群:血液疾患3項目、G14群:先天代謝異常、G17群:生活習慣上の問題4項目であった。これらは、標準項目の候補として「不適当」と判定すべきであろう。なおG06群については、一部の市町村で血液検査により貧血のスクリーニングが実施されていることを記述しておきた

い。

また、G18 群：情緒行動上の問題は、3 歳児健診の「3.多動」と1 歳6 か月児健診、3 歳児健診の「90.G18 別項目」が区分 C であったが、他は区分 D または区分 E であり、同様に「不適當」と考えられた。

臨床的な意義を加味した検討が必要な項目（「要検討：臨床的意義」として、A 群：妊娠・出産、B 群：新生児期、D 群：新生児期検査、F 群：既往症、G 群：小児科医所見（G08 群、G17 群、G18 群を除く）、I 群：眼科医所見、K 群：耳鼻咽喉科医所見、M 群：検尿所見（3.潜血）が考えられた。このうち G02 群、G04 群、G13 群については、項目ごとの出現頻度は多くないものの臨床的な意義が高い項目が多いと考えられた。

また、G18 群については、1 歳6 か月児健

診と3 歳児健診では「G18 群別項目」が区分 C であり、特にこの時期に社会性の発達が大きな課題であることから、臨床的な意義を考慮した標準項目の作成が必要と考えられた。

標準的な項目の検討が必要な項目（「要検討：要標準項目」としては、E 群：身体測定「6.カウプ指数」、H 群：小児科医所見の判定、J 群：眼科医所見の判定、L 群：耳鼻咽喉科医所見の判定、N 群：育児指導等の所見、O 群：保健指導の判定、Q 群：フォローアップ結果など、標準項目の作成に向けた今後の検討が必要と考えられた。

なお、通知の（別添 5）の項目には、多くの「その他」の項目があるが、これらはすべて集計上の意義が少ないと考えられた。

表 1. 大分類とその内容

大分類		内容	分析のポイント
A	妊娠・出産	妊娠期から分娩および産褥期の「母親の状況」に関する項目。市区町村項目に胎児の状況がある場合はこの大分類に該当する。	主に 3～4 か月児健診で把握されるが、乳児期の健診を個別健診で実施する場合など例外的に、1 歳 6 か月児健診や 3 歳児健診に A 群の項目が存在する場合がある。
B	新生児期	出産から新生児期（生後 7 日まで）の「子どもの状況」に関する項目。	
C	授乳	授乳方法を把握する項目。選択肢は、母子健康手帳で「1. 母乳 2. 人工乳 3. 混合」の 3 択である。1 か月児や 3～4 か月児の授乳の状況を把握する場合がほとんどである。	3 択以外に、ミルク量や回数など詳細な内容に対する記述がある場合も同一項目として対応させる。
D	新生児期検査	新生児期に医療機関で「子ども」に対して実施される検査項目。通常、先天性代謝異常等検査と新生児聴覚検査のみである。	
E	身体測定	身長、体重、胸囲、頭囲。体格を評価する指標には、標準項目の「カウプ指数」以外に、パーセントイル値、肥満度、ローレル指数、BMI があり、この分類に含める。	体重（g）と体重（kg）は別項目とする。
F	既往症	「子ども」に関する既往症を把握する項目。母の病気や家族歴は該当しない。	既往症として具体的な病名等が記載されている場合は、それぞれ別の意味を持つため、別項目とする。
G	小児科医の診察所見	医師が診察した所見の有無や異常の有無を判定する項目。疾患群別に対応を検討するため、中項目として G01～G18 を設定して、対応を検討する。厚生労働省の標準項目の疾患群には、所見や病名その他が混在しているため、中分類を設けて整理する。	診察所見に関する問診項目は、P 群（子どもの発達や病気に係る問診項目）に紐づける。
H	小児科医の診察所見の判定	G 群の診察所見に対して、精密検査が必要かどうかについて指導するための判定項目。地域保健・健康増進事業報告の 2(2)母子保健（健康診査）の一般健康診査並びに精密健康診査の受診結果の区分によることが多いが、各市区町村の判定区分のばらつきを分析する。なお、G 群に属する類似項目の例として、「要フォロー（発達）」や「心理相談」の対象、「事後教室」の対象など、具体的な指導内容を記載した区分を設けている場合がある。	要経過観察と要観察は同一。要紹介と要精密検査、要治療は同一。 なお、J 群、L 群、S 群や O 群（のうちの総合判定）は、判定区分は同じであるが異なる所見を扱うため、別の群として分析する。 また、G 群の中分類や小分類の項目ごとに、この判定が用いられている場合には、H 群に複数計上する。
I	眼科医所見（3 歳児）	3 歳児健診のみに適応する。眼科医が、視力検査・視覚検査や眼科疾患の所見の有無を判定する項目。	
J	眼科医所見（3 歳児）の判定	3 歳児健診のみに適応する。I 群の眼科医所見に対して、精密検査が必要かどうかについて指導するための判定項目。	要経過観察と要観察は同一。要紹介と要精密検査、要治療は同一。J 群に属する類似項目として、視覚検査についての「要再検査」や「未実施」などの項目が対応する場合がある。
K	耳鼻咽喉科医所見（3 歳児）	3 歳児健診のみに適応する。耳鼻咽喉科医が、聴力検査・聴覚検査や耳鼻咽喉科疾患の所見の有無を判定する項目。	K105 言語発達の遅れは、G02 精神発達障害に類似項目がある。3 歳児健診で G 群小児科医の診察所見とは別に、耳鼻咽喉科医所見の記載欄がある場合のみに対応させる。
L	耳鼻咽喉科医所見（3 歳児）の判定	3 歳児健診のみに適応する。K 群の耳鼻咽喉科医所見に対して、精密検査が必要かどうかについて指導するための判定項目。	要経過観察と要観察は同一。要紹介と要精密検査、要治療は同一。L 群に属する類似項目として、聴覚検査についての「要再検査」や「未実施」などの項目が対応する場合がある。
M	検尿（3 歳児）	基本的には 3 歳児健診の項目であるが、1 歳 6 か月児健診で該当項目が存在する市区町村もある。	（一・±・+）の選択肢の不一致は、M 群に属する別項目とする。検尿所見について、「再判定」や「要精密検査」の指導区分が市区町村にある場合は、H 群に属する追加項目とする。
N	育児指導等の所見	育児指導や栄養指導が必要となる（母）親の状況を把握する項目。（母）親の育児に改善すべき問題がないかどうかを、保健師等の健診従事者が把握するために、（生活リズムや母の心身状態、心配事の有無などの）区分を設けている場合に対応させる。栄養の項目は、授乳や離乳、食事やおやつなどの状況を把握する区分が対応する項目である。	市区町村の項目には該当する問診項目が多数認められると予測されるが、問診項目に対応させる必要はない。歯科の項目として、おやつや甘い飲み物の摂取状況を問診している項目が予想されるが、問診項目は分析対象外である。また、起床時間、就寝時間、朝食などを具体的に記述する項目がある。生活リズムを尋ねる問診であるが、集計対象としない。
O	保健指導の判定	N 群の育児指導等の所見に対して、支援が必要かどうかを判定する項目。	医師等の診察結果を踏まえて総合的に判定する「総合判定」で H 群の判定区分を用いている場合は、O 群の項目に含めて集計する。
P	子どもの発達や病気に関する問診	親が回答する問診項目である。通常は、「〇〇ができますか」などの質問文と選択肢からなっており、厚生労働省の標準項目とは違った記述が多いが、標準項目の「笑う」、「追視」などのキーワードにより対応を判定する。	基本的に、問診項目（親や家族の状況、子どもの生活習慣等）は分析対象外とするが、子どもの発達や診察項目に関する問診は、乳幼児健診事業として重要であることから、例外的に分析対象とするために、対応を求めるものとする。
Q	フォローアップ結果	フォローアップ結果	健診後に医療機関で受けた精密検査の結果を把握する項目。

表 2. G 群の中分類とその内容

中分類		内容	分析のポイント
G01	身体的発育異常	体重、身長などによって示される発育の異常の有無を判定する項目。例として、体重増加不良、低身長、肥満などの項目名が該当する。 ※頭囲拡大など頭囲に関する所見は、G15 先天性形態異常(頭)に対応させる。	体重増加不良、低身長、肥満などは、それぞれ別の意味を持つため、別項目として整理する。
G02	精神発達障害	精神機能の発達の異常の有無を判定する項目。乳児期の選択肢(ア 笑わない、イ 喃語が出ない、ウ 視線が合わない)は、問診項目に同一文言のあることが予測されるが、問診項目はG02群には対応させず、P群：子どもの発達や病気に関する問診項目として対応させる。	精神発達異常を表す診断名や区分は、数多存在する。例えば、知的障害、精神発達遅滞、言語発達遅滞、認知の異常、社会性の障害や、行動の障害、疾病名として自閉症スペクトラム症候群もこの範疇にある。いずれも、別の意味を持つため、別項目として整理する。
G03	けいれん	医師の所見に「けいれん」または「熱性けいれん」の有無を記述する欄がある場合のみ対応させる。既往症や問診でけいれん等の既往を尋ねる項目は、F群に対応させる。	
G04	運動発達異常	運動機能の発達の異常の有無を判定する項目。乳児期の選択肢(ア 定額未完了、イ 物をつかまない)は、問診項目に同一文言のあることが予測されるが、問診項目はG04群には対応させず、P群：発達に関する問診の項目として対応させる。	未歩行、お座りしないなども、問診で親に尋ねている場合は、P群：発達に関する問診の項目である。運動の異常の原因の中でも、四肢の骨や関節の形態の異常に関連する項目は、G15 先天性形態異常(四肢)(体幹等)またはG17 その他の異常に対応させる。
G05	神経系・感覚器系の異常	視覚や聴覚および神経系の異常の有無を判定する項目。問診項目に関連する内容のあることが予測されるが、問診項目はG05群には対応させず、P群：発達に関する問診の項目として対応させる。	視覚についてはI群に類似項目が、聴覚についてはK群に類似項目が認められる。I～L群は3歳児健診において、視覚検査と聴覚検査が特別に実施されていることが類似項目の重複の原因である。3歳児健診において、G群の診察項目とは別に、眼科と耳鼻科の項目がある場合のみにI～L群に対応させる。
G06	血液疾患	貧血など血液疾患の所見の有無を判定する項目。	
G07	皮膚疾患	湿疹やアトピー性皮膚炎など皮膚疾患の所見の有無を判定する項目。	
G08	股関節	股関節の異常の有無を判定する項目。(先天性)股関節脱臼・発達性股関節形成異常等を発見することを目的とした項目。	
G09	斜頸	乳児期の斜頸の所見の有無を判定する項目。	
G10	循環器系疾患	先天性心疾患の所見の有無を判定する項目。標記が「心雑音」ではなくとも、先天性心疾患の所見を示す項目(心音異常ほか)は、同一項目とする。	
G11	呼吸器系疾患	ぜんそくなどの呼吸器系疾患の所見の有無を判定する項目。	
G12	消化器系疾患	消化器系疾患の所見の有無を判定する項目。通常は、ア 腹部膨満・腹部腫瘤、イ そけいヘルニア、ウ 膈ヘルニアなど具体的に記述されることが多い。	
G13	泌尿器系疾患	泌尿器系疾患の所見の有無を判定する項目。通常は、ア 停留精巣、イ 外性器異常など具体的に記述されることが多い。	仙骨部の陥凹は、G15群とも関連するがこの群に含める。
G14	先天性代謝異常	先天性代謝異常の所見の有無を判定する項目。	先天性代謝異常症は、通常、乳幼児健診よりも新生児期のマスキングでの発見を目指すことが多い。
G15	先天性形態異常	小奇形や形態の異常の有無を判定する項目。	
	先天性形態異常(頭)	例)頭囲拡大、大泉門(開大、閉鎖)、水頭症、小頭症、頭蓋変形ほか	小分類としてコード化する。
	先天性形態異常(顔面)	例)顔貌異常、小耳、耳介変形、唇裂・口蓋裂ほか	小分類としてコード化する。
	先天性形態異常(四肢)	例)多指(趾)症、O脚、X脚ほか	小分類としてコード化する。
	先天性形態異常(体幹等)	例)漏斗胸、鳩胸、胸郭変形ほか	小分類としてコード化する。
G16	その他の異常	G01～G15、及びG17、G18に含まれない診察所見の有無を判定する項目。	
G17	生活習慣上の問題(医師の診察所見の場合のみ)	小食や偏食などの生活習慣上の問題の有無を判定する項目。市区町村の問診項目に類似の項目が認められると予測されるが、問診項目を対応させない。	小食や偏食は市区町村の栄養指導(標準項目ではN群に該当)に記述されている場合も予測されるが、本分析では、G18に対応させる。診察項目ではなく保健指導の対象項目として、生活習慣上の問題が記述されている場合は、O保健指導の判定の関連項目に対応させる。
G18	情緒行動上の問題(医師の診察所見の場合のみ)	指しゃぶり、吃音、多動、不安・恐れなどの情緒行動上の問題を判定する項目。市区町村の問診項目に類似の項目が認められると予測されるが、問診項目は対応させない。	診察項目ではなく保健指導の対象項目として、情緒行動上の問題が記述されている場合は、O保健指導の判定の関連項目に対応させる。

表 3. 基本情報票の項目

大分類	中分類	項目	3～4か月児 (n=203)		9～10か月児 (n=113)		1歳6か月児 (n=211)		3歳児(n=213)	
			市町村 数	該当割 合	市町村 数	該当割 合	市町村 数	該当割 合	市町村 数	該当割 合
A 妊娠・ 出産	妊娠中の特記事項	1 妊娠高血圧症候群	62	30.5%	1	0.9%	14	6.6%	14	6.6%
		2 尿(蛋白)	31	15.3%	0	0.0%	3	1.4%	3	1.4%
		3 尿(糖)	23	11.3%	0	0.0%	2	0.9%	2	0.9%
		4 高血圧/浮腫	35	17.2%	0	0.0%	3	1.4%	2	0.9%
		5 貧血	66	32.5%	1	0.9%	14	6.6%	15	7.0%
		6 糖尿病	36	17.7%	0	0.0%	5	2.4%	4	1.9%
		7 切迫流産	56	27.6%	0	0.0%	11	5.2%	9	4.2%
		8 切迫早産	56	27.6%	0	0.0%	11	5.2%	9	4.2%
		9 多胎妊娠	20	9.9%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%
		10 その他	70	34.5%	2	1.8%	14	6.6%	15	7.0%
B 新生児 期	分娩時の特記事項	1 帝王切開術	91	44.8%	10	8.8%	19	9.0%	19	8.9%
		2 骨盤位	79	38.9%	3	2.7%	9	4.3%	11	5.2%
		3 その他()	80	39.4%	8	7.1%	13	6.2%	13	6.1%
C 授乳	産褥期の特記事項	1 無・有	10	4.9%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%
		0	126	62.1%	14	12.4%	37	17.5%	41	19.2%
		1 ()週	128	63.1%	24	21.2%	61	28.9%	70	32.9%
		1 仮死	81	39.9%	4	3.5%	27	12.8%	29	13.6%
		2 その他()	57	28.1%	2	1.8%	13	6.2%	14	6.6%
		1 黄疸治療()	95	46.8%	3	2.7%	25	11.8%	27	12.7%
		1 ()g	140	69.0%	26	23.0%	67	31.8%	75	35.2%
		0	132	65.0%	12	10.6%	48	22.7%	53	24.9%
		1 授乳：母乳・人工乳・混合	176	86.7%	72	63.7%	35	16.6%	5	2.3%
		0	93	45.8%	7	6.2%	8	3.8%	4	1.9%
D 新生児 期検査	先天性代謝異常等検査	1 異常無・有()	50	24.6%	0	0.0%	2	0.9%	1	0.5%
		1 初回検査受けた(正常・再検査)・受けていない	81	39.9%	0	0.0%	3	1.4%	2	0.9%
		2 初回検査再検査結果(正常・要精密検査)	18	8.9%	0	0.0%	1	0.5%	1	0.5%
		3 精密検査受けた(正常・異常)・受けていない	9	4.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
9	D群別項目	22	10.8%	2	1.8%	0	0.0%	1	0.5%	

表 4. 身体測定及び既往症の項目

大分類	中分類	項目	3～4か月児 (n=203)			9～10か月児 (n=113)			1歳6か月児 (n=211)			3歳児(n=213)		
			市町村数	該当割合	区分	市町村数	該当割合	区分	市町村数	該当割合	区分	市町村数	該当割合	区分
E 身体測定	1 身体測定	1 身長 () c m	193	95.1%	A	108	95.6%	A	208	98.6%	A	209	98.1%	A
		2 体重 () g	185	91.1%	A	99	87.6%	B						
		3 体重 () k g												
		4 胸囲 () c m	152	74.9%	C	87	77.0%	B	208	98.6%	A	209	98.1%	A
		5 頭囲 () c m	183	90.1%	A	100	88.5%	B	166	78.7%	B	156	73.2%	C
		6 カウブ指数	93	45.8%	C	54	47.8%	C	68	32.2%	C	61	28.6%	C
9 E群別項目	0	該当市町村数	122	60.1%		55	48.7%		141	66.8%		155	72.8%	
		総項目数	513	-	C	168	-		451	-	C	504	-	C
		平均値 (市町村)	4.2	-		3.1	-		3.2	-		3.3	-	
		最大値	13	-		9	-		12	-		16	-	
		無・有 ()	121	59.6%	C	55	48.7%	C	122	57.8%	C	115	54.0%	C
F 既往症	1 既往症	該当市町村数	119	58.6%		58	51.3%		179	84.8%		181	85.0%	
		総項目数	318	-	C	141	-		698	-	B	785	-	B
		平均値 (市町村)	2.7	-		2.4	-		3.9	-		4.3	-	
		最大値	18	-		17	-		30	-		30	-	

表 5. 小児科医の所見 (1)

中分類	項目	3~4か月児 (n=203)			9~10か月児 (n=113)			1歳6か月児 (n=211)			3歳児(n=213)		
		市町村数	該当割合	区分	市町村数	該当割合	区分	市町村数	該当割合	区分	市町村数	該当割合	区分
G01	1 (有・無)	16	7.9%	E	2	1.8%	E	28	13.3%	D	24	11.3%	D
	0 G01 群別項目	109	53.7%	C	64	56.6%	C	119	56.4%	C	144	67.6%	C
G02	1 笑わない	17	8.4%	E	0	0.0%	E	0	0.0%	E	0	0.0%	E
	2 喃語が出ない	13	6.4%	E	5	4.4%	E	0	0.0%	E	0	0.0%	E
	3 視線が合わない	12	5.9%	E	7	6.2%	E	9	4.3%	E	6	2.8%	E
	4 精神発達遅滞	1	0.5%	E	0	0.0%	E	61	28.9%	C	63	29.6%	C
	5 言語発達遅滞	0	0.0%	E	0	0.0%	E	84	39.8%	C	88	41.3%	C
G03	0 G02 群別項目	30	14.8%	D	34	30.1%	C	59	28.0%	C	63	29.6%	C
	1 けいれん	49	24.1%	D	22	19.5%	D	0	0.0%	E	0	0.0%	E
G04	2 熱性けいれん	0	0.0%	E	0	0.0%	E	80	37.9%	C	78	36.6%	C
	0 G03 群別項目	38	18.7%	D	28	24.8%	D	131	62.1%	C	118	55.4%	C
G05	1 定額未完了	110	54.2%	C	4	3.5%	E	1	0.5%	E	1	0.5%	E
	2 物をつかまさない	18	8.9%	E	6	5.3%	E	2	0.9%	E	0	0.0%	E
	3 (機能)	0	0.0%	E	0	0.0%	E	68	32.2%	C	60	28.2%	C
	0 G04 群別項目	124	61.1%	C	73	64.6%	C	109	51.7%	C	85	39.9%	C
	1 追視しない	100	49.3%	C	12	10.6%	D	2	0.9%	E	2	0.9%	E
G05	2 斜視	95	46.8%	C	44	38.9%	C	113	53.6%	C	103	48.4%	C
	3 視覚	7	3.4%	E	8	7.1%	E	112	53.1%	C	40	18.8%	D
	4 聴覚異常	99	48.8%	C	44	38.9%	C	0	0.0%	E	0	0.0%	E
	5 聴覚	3	1.5%	E	0	0.0%	E	141	66.8%	C	41	19.2%	D
	6 筋緊張異常	112	55.2%	C	34	30.1%	C	34	16.1%	D	23	10.8%	D
G05	7 てんかん性疾患	1	0.5%	E	1	0.9%	E	19	9.0%	E	19	8.9%	E
	8 その他	32	15.8%	D	8	7.1%	E	30	14.2%	D	20	9.4%	E
	0 G05 群別項目	97	47.8%	C	64	56.6%	C	122	57.8%	C	74	34.7%	C

表 5. 小児科医の所見 (2)

中分類	項目	3~4か月児 (n=203)			9~10か月児 (n=113)			1歳6か月児 (n=211)			3歳児(n=213)		
		市町村数	該当割合	区分	市町村数	該当割合	区分	市町村数	該当割合	区分	市町村数	該当割合	区分
G06 血液疾患	1 貧血	20	9.9%	E	9	8.0%	E	28	13.3%	D	27	12.7%	D
	2 その他	14	6.9%	E	4	3.5%	E	20	9.5%	E	18	8.5%	E
	90 G06 群別項目	10	4.9%	E	4	3.5%	E	8	3.8%	E	10	4.7%	E
G07 皮膚疾患	1 湿疹	115	56.7%	C	58	51.3%	C	101	47.9%	C	94	44.1%	C
	2 アトピー性皮膚炎	38	18.7%	D	19	16.8%	D	98	46.4%	C	98	46.0%	C
	3 その他	56	27.6%	C	28	24.8%	D	79	37.4%	C	73	34.3%	C
G08 股関節	90 G07 群別項目	145	71.4%	C	71	62.8%	C	167	79.1%	B	165	77.5%	B
	1 開排制限	154	75.9%	B	38	33.6%	C	19	9.0%	E	6	2.8%	E
	2 M字型開脚ではない	16	7.9%	E	1	0.9%	E	0	0.0%	E	0	0.0%	E
G09 斜頸	90 G08 群別項目	91	44.8%	C	25	22.1%	D	20	9.5%	E	14	6.6%	E
	1 (有・無)	90	44.3%	C	27	23.9%	D	30	14.2%	D	26	12.2%	D
	90 G09 群別項目	12	5.9%	E	3	2.7%	E	1	0.5%	E	1	0.5%	E
G10 循環器系疾患	1 心雑音	138	68.0%	C	66	58.4%	C	153	72.5%	C	157	73.7%	C
	2 その他	35	17.2%	D	13	11.5%	D	48	22.7%	D	46	21.6%	D
	90 G10 群別項目	77	37.9%	C	44	38.9%	C	117	55.5%	C	129	60.6%	C
G11 呼吸器系疾患	1 (有・無)	26	12.8%	D	5	4.4%	E	0	0.0%	E	0	0.0%	E
	2 ぜんそく性疾患	7	3.4%	E	1	0.9%	E	36	17.1%	D	44	20.7%	D
	3 その他	3	1.5%	E	0	0.0%	E	44	20.9%	D	44	20.7%	D
G12 消化器系疾患	90 G11 群別項目	92	45.3%	C	48	42.5%	C	118	55.9%	C	123	57.7%	C
	1 腹部膨満・腹部腫瘤	59	29.1%	C	30	26.5%	C	50	23.7%	D	47	22.1%	D
	2 そけいヘルニア	95	46.8%	C	44	38.9%	C	123	58.3%	C	117	54.9%	C
	3 臍ヘルニア	78	38.4%	C	37	32.7%	C	60	28.4%	C	34	16.0%	D
	4 便秘	6	3.0%	E	0	0.0%	E	9	4.3%	E	9	4.2%	E
	5 その他	35	17.2%	D	17	15.0%	D	55	26.1%	C	58	27.2%	C
90 G12 群別項目	115	56.7%	C	56	49.6%	C	146	69.2%	C	155	72.8%	C	

表 5. 小児科医の所見 (3)

中分類	項目	3~4か月児 (n=203)			9~10か月児 (n=113)			1歳6か月児 (n=211)			3歳児(n=213)		
		市町村数	該当割合	区分	市町村数	該当割合	区分	市町村数	該当割合	区分	市町村数	該当割合	区分
G13 泌尿器系疾患	1 停留精巣	110	54.2%	C	55	48.7%	C	130	61.6%	C	130	61.0%	C
	2 外生殖器異常	16	7.9%	E	4	3.5%	E	16	7.6%	E	14	6.6%	E
	3 その他	39	19.2%	D	19	16.8%	D	54	25.6%	C	55	25.8%	C
G14 先天性代謝異常	9 G13 群別項目	112	55.2%	C	59	52.2%	C	114	54.0%	C	119	55.9%	C
	1 (有・無)	15	7.4%	E	4	3.5%	E	5	2.4%	E	1	0.5%	E
	9 G14 群別項目	4	2.0%	E	1	0.9%	E	3	1.4%	E	3	1.4%	E
G15 先天性形態異常	1 先天性形態異常(頭)	133	65.5%	C	65	57.5%	C	126	59.7%	C	102	47.9%	C
	2 先天性形態異常(顔面)	94	46.3%	C	43	38.1%	C	75	35.5%	C	68	31.9%	C
	3 先天性形態異常(四肢)	102	50.2%	C	56	49.6%	C	145	68.7%	C	157	73.7%	C
	4 先天性形態異常(体幹等)	85	41.9%	C	35	31.0%	C	110	52.1%	C	126	59.2%	C
	5 先天異常	1	0.5%	E	0	0.0%	E	17	8.1%	E	19	8.9%	E
G16 その他の異常	9 G15 群別項目	55	27.1%	C	20	17.7%	D	53	25.1%	C	46	21.6%	D
	1 (有・無)	97	47.8%	C	40	35.4%	C	110	52.1%	C	103	48.4%	C
	9 G16 群別項目	128	63.1%	C	72	63.7%	C	144	68.2%	C	146	68.5%	C
G17 生活習慣上の問題	1 小食	0	0.0%	E	0	0.0%	E	21	10.0%	E	25	11.7%	D
	2 偏食	0	0.0%	E	0	0.0%	E	27	12.8%	D	29	13.6%	D
	3 その他	0	0.0%	E	0	0.0%	E	15	7.1%	E	18	8.5%	E
G18 情緒行動上の問題	9 G17 群別項目	16	7.9%	E	10	8.8%	E	34	16.1%	D	53	24.9%	D
	1 指しゃぶり	0	0.0%	E	0	0.0%	E	13	6.2%	E	12	5.6%	E
	2 吃音	0	0.0%	E	0	0.0%	E	1	0.5%	E	19	8.9%	E
	3 多動	0	0.0%	E	1	0.9%	E	49	23.2%	D	55	25.8%	C
	4 不安・恐れ	0	0.0%	E	1	0.9%	E	39	18.5%	D	28	13.1%	D
9 G18 群別項目	2	1.0%	E	4	3.5%	E	86	40.8%	C	89	41.8%	C	

表 6. 小児科医の所見の判定

大分類	中分類	項目	3~4 か月児 (n=203)		9~10 か月児 (n=113)		1 歳 6 か月児 (n=211)		3 歳児(n=213)		区分
			市町村数	該当割合	市町村数	該当割合	市町村数	該当割合	市町村数	該当割合	
H 小児科医 所見の判 定	1 診察所見 の判定	1 異常なし	194	95.6%	98	86.7%	203	96.2%	203	95.3%	A
			546	-	151	-	539	-	539	-	
			2.8	-	1.5	-	2.7	-	2.7	-	
			60	-	16	-	55	-	56	-	
		2 既医療	143	70.4%	77	68.1%	149	70.6%	149	70.0%	C
			362	-	116	-	378	-	362	-	
			2.5	-	1.5	-	2.5	-	2.4	-	
			54	-	14	-	55	-	46	-	
		3 要経過観察	188	92.6%	93	82.3%	198	93.8%	200	93.9%	A
			588	-	169	-	620	-	608	-	
			3.1	-	1.8	-	3.1	-	3.0	-	
			63	-	16	-	62	-	56	-	
		4 要紹介(要精密)	193	95.1%	99	87.6%	203	96.2%	205	96.2%	A
			1,038	-	290	-	1,138	-	1,150	-	
			5.4	-	2.9	-	5.6	-	5.6	-	
			123	-	28	-	110	-	112	-	
		6 紹介先	37	18.2%	19	16.8%	39	18.5%	43	20.2%	D
			52	-	26	-	53	-	59	-	
			1.4	-	1.4	-	1.4	-	1.4	-	
	7		-	6	-	7	-	7	-		
7 診断医名	165	81.3%	82	72.6%	172	81.5%	174	81.7%	B		
	192	-	86	-	182	-	188	-			
	1.2	-	1.0	-	1.1	-	1.1	-			
	3	-	2	-	3	-	3	-			
9 H群別項 目	0 該当市町村数	155	76.4%	78	69.0%	161	76.3%	165	77.5%	B	
		824	-	239	-	864	-	934	-		
		5.3	-	3.1	-	5.4	-	5.7	-		
		121	-	32	-	110	-	112	-		

表 7. 視覚・聴覚

大分類	中分類	項目	3～4か月児 (n=203)		9～10か月児 (n=113)		1歳6か月児 (n=211)		3歳児(n=213)		区分
			市町村数	該当割合	市町村数	該当割合	市町村数	該当割合	市町村数	該当割合	
I 眼科医所 見	1 眼科所見	1 視力 両眼：	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	40	18.8%	D
		2 視力 右眼：	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	57	26.8%	C
		3 視力 左眼：	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	57	26.8%	C
		4 屈折：	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	3.3%	E
		5 眼底：	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.9%	E
		6 眼位異常 無・有・疑 ()	2	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	20	9.4%	E
		7 眼球運動異常 無・有・疑 ()	4	2.0%	2	1.8%	5	2.4%	26	12.2%	D
		8 その他の所見	1	0.5%	1	0.9%	2	0.9%	43	20.2%	D
J 眼科医所 見の判定	9 I群別項目	0	10	4.9%	5	4.4%	18	8.5%	144	67.6%	C
		1 異常なし	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	88	41.3%	C
		2 既医療	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	38	17.8%	D
		3 要経過観察 (か月後位)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	43	20.2%	D
		4 要精密検査	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	83	39.0%	C
		5 診断医名	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	17	8.0%	E
		0	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	92	43.2%	C
		1 聴力 右 (正常・難聴 db)	0	0.0%	1	0.9%	0	0.0%	31	14.6%	D
K 耳鼻咽喉 科医所見	1 耳鼻咽喉科 所見	2 聴力 左 (正常・難聴 db)	0	0.0%	1	0.9%	0	0.0%	31	14.6%	D
		3 テイパノメトリー 右 A B C 型	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	10	4.7%	E
		4 テイパノメトリー 左 A B C 型	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	10	4.7%	E
		5 言語発達の遅れ 無・有	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	13	6.1%	E
		6 構音障害 無・有	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	18	8.5%	E
		7 その他の所見	1	0.5%	1	0.9%	1	0.5%	44	20.7%	D
		0	11	5.4%	4	3.5%	20	9.5%	145	68.1%	C
		1 異常なし	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	79	37.1%	C
L 耳鼻咽喉 科医所見 の判定	9 I群別項目	2 既医療	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	39	18.3%	D
		3 要経過観察 (か月後位)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	37	17.4%	D
		4 要精密検査	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	74	34.7%	C
		5 診断医名	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	17	8.0%	E
		0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	84	39.4%	C

表 8 尿検査

大分類	中分類	項目	3～4か月児 (n=203)		9～10か月児 (n=113)		1歳6か月児 (n=211)		3歳児(n=213)		区分
			市町村数	該当割合	市町村数	該当割合	市町村数	該当割合	市町村数	該当割合	
M 検尿	1 検尿	1 蛋白 (-・±・+)	4	2.0%	4	3.5%	17	8.1%	186	87.3%	B
		2 糖 (-・±・+)	4	2.0%	3	2.7%	15	7.1%	169	79.3%	B
		3 潜血 (-・±・+)	1	0.5%	2	1.8%	13	6.2%	147	69.0%	C
	9 M群別項目	0	2	1.0%	2	1.8%	8	3.8%	91	42.7%	C

表 9 保健指導等の所見と判定

大分類	中分類	項目	3～4か月児 (n=203)		9～10か月児 (n=113)		1歳6か月児 (n=211)		3歳児(n=213)		区分
			市町村数	該当割合	市町村数	該当割合	市町村数	該当割合	市町村数	該当割合	
N 育児指導等の所見	1 育児指導等	1 生活リズム	11	5.4%	4	3.5%	17	8.1%	16	7.5%	E
		2 母の心身状態	6	3.0%	1	0.9%	12	5.7%	12	5.6%	E
		3 その他	12	5.9%	3	2.7%	14	6.6%	14	6.6%	E
O 保健指導の判定	2 心配事	1 無・有 ()	9	4.4%	3	2.7%	6	2.8%	6	2.8%	E
		3 栄養指導	71	35.0%	37	32.7%	96	45.5%	88	41.3%	C
		9 N群別項目	158	77.8%	80	70.8%	166	78.7%	164	77.0%	B
Q フォローアップ結果	1 記事	1 特に問題なし	66	32.5%	36	31.9%	75	35.5%	76	35.7%	C
		2 保健師による支援が必要	41	20.2%	20	17.7%	47	22.3%	48	22.5%	D
		3 その他の支援が必要 ()	32	15.8%	15	13.3%	37	17.5%	38	17.8%	D
		4 保健指導の判定者	98	48.3%	40	35.4%	116	55.0%	120	56.3%	C
	9 O群別項目	0	113	55.7%	60	53.1%	133	63.0%	140	65.7%	C
	1 記事	1	0.5%	0	0.0%	1	0.5%	4	1.9%	E	
	9 Q群別項目	0	56	27.6%	25	22.1%	51	24.2%	74	34.7%	C

表 10. 子どもの発達や病気に関する問診項目

大分類	中分類	項目	3～4 か月児 (n=203)		9～10 か月児 (n=113)		1 歳 6 か月児 (n=211)		3 歳児(n=213)		区分				
			市町村 数	該当割 合	市町村 数	該当割 合	市町村 数	該当割 合	市町村 数	該当割 合					
P 子どもの 発達や病 気に関す る問診	1 発達 (問 診)	1	笑う () か月	173	85.2%	B	13	11.5%	E	14	6.6%	E	6	2.8%	E
		2	追視 () か月	169	83.3%	B	17	15.0%	D	28	13.3%	E	5	2.3%	E
		3	定頸 () か月	165	81.3%	B	16	14.2%	E	49	23.2%	D	17	8.0%	E
		4	人の声のするほうに向く () か 月	155	76.4%	B	43	38.1%	C	69	32.7%	C	6	2.8%	E
		5	おもちゃをつかむ () か月	122	60.1%	C	40	35.4%	C	33	15.6%	D	3	1.4%	E
		6	お座り () か月	22	10.8%	E	65	57.5%	C	49	23.2%	D	13	6.1%	E
		7	発語 () か月	20	9.9%	E	14	12.4%	E	173	82.0%	B	46	21.6%	D
		8	ひとり歩き () か月	14	6.9%	E	13	11.5%	E	184	87.2%	B	51	23.9%	D
		9	二語文 () 歳 () か月	5	2.5%	E	2	1.8%	E	19	9.0%	E	60	28.2%	C
0 P 群別 項目*	9	該当市町村数	187	92.1%		102	90.3%		205	97.2%		206	96.7%		
		総項目数	2,035	-	A	1,658	-	A	5,417	-	A	6,217	-	A	
		平均値 (市町村)	10.9	-		16.3	-		26.4	-		30.2	-		
		最大値	57	-		54	-		79	-		102	-		

乳幼児健診における標準的な医師の診察に関する検討

小枝達也

国立研究開発法人国立成育医療研究センター こころの診療部

研究要旨

日本小児医療保健協議会（四者協）健康診査委員会が主催する乳幼児健診講習会での研修内容を元に、医師診察における手技や診察の留意点などの情報を収集した。また、現在わが国で実施されている乳幼児健康診査の自治体が作成しているマニュアルや出版されている乳幼児健康診査マニュアルを調査して、標準的なマニュアル作成の資料として活用した。

身体診察マニュアル作成に際しては、前述の資料を活用するとともに、日本小児医療保健協議会健康診査委員会に執筆や編集協力を依頼して、小児科医の視点に加えて整形外科医、眼科医、耳鼻科医、精神科医といった専門診療科の視点も取り入れて、包括的なマニュアルとなることを目指した。

I. はじめに

我が国の乳幼児健康診査は、その実施率が高い一方で、統一された標準的な身体診察マニュアルがなく、診察する医師の判断に任されている状態の自治体や、独自のマニュアルを作成して健診の均質化を図ろうとしている自治体があるなど、その対応は様々である。また担当する医師も必ずしも小児の診療を専門としている医師とは限らず、内科医等が担当している地域もある。

厚生労働省は、「乳幼児に対する健康診査の実施について」（平成10年4月8日児発第285号厚労省児童家庭局長通知）（最終改正平成27年9月11日 雇児発0911第1号）の中で、乳幼児健康診査で医師が診察すべき診察項目や所見を明示していることから、この通知に沿った診察が行われるべきであるが、その所見の取り方や判断基準、その後の対応については、統一された手順や基準の身体診察マニュアルが作成されていないのが現状である。そこで本研究では、標準となる身体診察のマニュアル作成を目的とする。

II. 方法

標準となる身体診察のマニュアルを作成するにあたっては、まず基本となる健康診査の型を求める必要がある。日本小児医療保健協議会（いわゆる四者協）健康診査委員会は、乳幼児健康診査の研修会を定期的で開催しており、参加した医師からの質問や要望、提案を次回の研修会に活かすというフィードバック方式を取って、乳幼児健康診査の所見の取り方や判断基準、その後の対応についてレベルアップを図ってきている。年に2回のペースで研修会を開催し、平成25年度から5年間に1700名を超える医師に研修してきたという実績がある。また、研修会での動画やスライドを関連学会や団体のホームページに掲載し、医師からのアクセスビリティを高め、日常的な研修の教材として提供している。

以上より、まずは日本小児医療保健協議会健康診査委員会の乳幼児健康診査研修会の研修内容を元に、各自治体で作成している乳幼児健康診査マニュアルおよび出版物

として刊行されている乳幼児健康診査に関する書籍の内容を吟味して、身体診察マニュアルを作成することとした。

作成にあたっては、日本小児医療保健協議会健康診査委員会をスーパーバイザーとして位置付け、同委員会の委員および研修会担当者から執筆担当者を選出した。とくに小児科専門医の視点に限定しないように、整形外科医、眼科医、耳鼻科医、精神科医にも執筆を担当してもらい、専門診療科の視点を取り入れることとした。

III. 結果

表1-4に示した診察項目と所見のうち表2、3の所見を基本項目として、所見の取り方、判定と対応について、1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査についてまとめた。1か月児健康診査、3、4か月児健康診査、9、10か月児健康診査については、表5の3、4か月児健康診査所見を基準とした。乳児健康診査では、とくに早期産児の割合が増えていることから早期産児の発育や発達について、出産予定日を念頭に置いた修正月齢を考慮する際の考え方を示した。

また、体重・身長・頭囲の発育評価に関しては、肥満に該当する小児の割合が増加していることを踏まえ、身体発育曲線（平成12年度乳幼児身体発育調査 e-stat 政府統計の窓口より）を用いることとした。

整形外科的な疾患、眼科的疾患、耳鼻科的疾患等については各年齢別の健康診査の中に組み込むこととした。さらに健やか親子21（第2次）の重点課題に掲げられた妊娠期からの虐待防止の一環として、周産期のメンタルヘルスについても、独立した章を設定して、現時点で健康診査に関わる医師

が留意すべき視点やチェック項目を加えることができた。乳幼児健康診査では、子どもの診察が主であることは言うまでもないが、保護者の様子も観察しておくことの大切さや診るべきポイントを示した。

以上の内容を「乳幼児健康診査 身体診察マニュアル」全104頁（カラー印刷用CD付）の冊子として、全国の自治体および医療関連団体に配布した（本報告書〇頁一〇頁）。

IV. 考察

診察に関しては科学的に検証された確固とした手順や所見の取り方があるわけではなく、医師として長年にわたって実務に当たってきた経験則に基づいたものであることが多い。例えば1歳6か月児健康診査で言葉の遅れと判断する基準も有意味語数が2つ未満、2つ以下、3つ以下など各自治体のマニュアルごとに異なっていて、どれを標準的な基準とするかについては判断できていない。何をターゲットとした基準なのかによっても基準値は異なってくるであろう。

したがって本研究で作成した身体診察マニュアルは、完成したものではなく今後の緻密な調査、研究によって完成へと導くための原案であるという位置づけが妥当であろうと考える。

V. 文献

1. 平岩幹男. 乳幼児健診ハンドブック 改訂第4版. 診断と治療社, 2015.
2. 福岡地区小児科医会 乳幼児保健委員会. 乳幼児健診マニュアル 第5版. 医学書院, 2016.
3. 前川喜平, 小枝達也. 写真でみる乳幼児

- 健診の神経学的チェック法 改訂 9 版.
南山堂, 2017.
4. 小児科編集一同. 乳幼児健診 新庄のポイント&保護者の疑問・相談にこたえる.
小児科臨時増刊号, 金原出版, 2017.
 5. 三重県母子保健・健診マニュアル 第 2 版
 6. 鳥取県乳幼児健康診査マニュアル 平成 26 年度版
 7. 愛知県母子健康診査マニュアル
 8. 新潟県乳幼児健康診査の手引き 改訂 第 5 版
 9. 奈良県乳幼児健康診査マニュアル(診察編)
 10. 徳島県乳幼児健康診査における精神運動発達のチェックポイント及び発達障害児の療育支援の手引き

表1 1歳6か月児健康診査の診察項目

<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体発育状況 2. 栄養状態 3. 脊柱及び胸郭の疾病及び異常の有無 4. 皮膚の疾病の有無 5. 眼の疾病及び異常の有無 6. 耳、鼻及び咽頭の疾病及び異常の有無 7. 四肢運動障害の有無 8. 精神発達の状況 9. 言語障害の有無 10. 予防接種の実施状況 11. その他の疾病及び異常の有無 12. 育児上問題となる事項（生活習慣の自立、社会性の発達、しつけ、食事、事故等）先天異常 13. その他の疾病及び異常の有無
--

表2 1歳6か月児健康診査の診察所見

<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体的発育異常 2. 精神的発達障害・・・精神発達遅滞、言語発達遅滞 3. 熱性けいれん 4. 運動機能異常 5. 神経系・感覚器の異常・・・視覚、聴覚、てんかん性疾患、その他 6. 血液疾患・・・貧血、その他 7. 皮膚疾患・・・アトピー性皮膚炎、その他 8. 循環器系疾患・・・心雑音、その他 9. 呼吸器系疾患・・・ぜんそく性疾患、その他 10. 消化器系疾患・・・腹部膨満・腹部腫瘤、そけいヘルニア、臍ヘルニア、便秘、その他 11. 泌尿生殖器系疾患・・・停留睪丸、外性器異常、その他 12. 先天異常 13. 生活習慣上の問題・・・小食、偏食、その他 14. 情緒行動上の問題・・・指しゃぶり、多動、不安・恐れ、その他
--

表3 3歳児健康診査の診察項目

1. 身体発育状況
2. 栄養状態
3. 脊柱及び胸郭の疾病及び異常の有無
4. 皮膚の疾病の有無
5. 眼の疾病及び異常の有無
6. 耳、鼻及び咽頭の疾病及び異常の有無
7. 四肢運動障害の有無
8. 精神発達の状況
9. 言語障害の有無
10. 予防接種の実施状況
11. その他の疾病及び異常の有無
12. 育児上問題となる事項（生活習慣の自立、社会性の発達、しつけ、食事、事故等）先天異常
13. その他の疾病及び異常の有無

表4 3歳児健康診査の診察所見

1. 身体的発育異常
2. 精神的発達障害・・・精神発達遅滞、言語発達遅滞
3. 熱性けいれん
4. 運動機能異常
5. 神経系・感覚器の異常・・・視覚、聴覚、てんかん性疾患、その他
6. 血液疾患・・・貧血、その他
7. 皮膚疾患・・・アトピー性皮膚炎、その他
8. 循環器系疾患・・・心雑音、その他
9. 呼吸器系疾患・・・ぜんそく性疾患、その他
10. 消化器系疾患・・・腹部膨満・腹部腫瘤、そけいヘルニア、臍ヘルニア、便秘、その他
11. 泌尿生殖器系疾患・・・停留睾丸、外性器異常、その他
12. 先天異常
13. 生活習慣上の問題・・・小食、偏食、その他
14. 情緒行動上の問題・・・指しゃぶり、吃音、多動、不安・恐れ、その他
15. その他の異常（児童虐待など）

表5 3～4か月児健康診査の診察所見

1. 身体的発育異常
2. 精神発達障害・・・笑わない、声がでない、視線があわない
3. けいれん
4. 運動発達異常・・・頸定未完了、物をつかまない
5. 神経系の異常・・・筋緊張異常、反射の異常
6. 感覚器の異常・・・追視をしない、斜視、聴覚異常
7. 血液疾患・・・貧血、その他
8. 皮膚疾患・・・湿疹、その他
9. 股関節・・・開排制限、M字型開脚ではない
10. 斜頸
11. 循環器系疾患・・・心雑音、その他
12. 呼吸器系疾患
13. 消化器系疾患・・・腹部膨満・腹部腫瘤、そけいヘルニア、臍ヘルニア、便秘、その他
14. 泌尿生殖器系疾患・・・停留睾丸、外性器異常、その他
15. 先天性形態異常（頭・顔面・四肢・体幹等）
16. その他の異常（児童虐待など）